

科目名 生活と環境

授業科目の区分 基礎分野

履修対象 1年次 後期

単位 1単位 15時間

担当講師 非常勤講師 2名

授業概要 看護の対象である人間の環境を地球環境から広く捉え、実際の自然や生物、また地域の催事などに触れながら、人間生活と結びつけて考察する。

1

授業計画

回	項目	内容	方法
1 5 4	自然環境と人間	・大気(大気汚染) ・水質(水の循環、水質汚染) ・地球生態系の中のヒト ・地球環境問題 ・地球温暖化(原因・結果・対策) ・生物の多様化(外来生物、生物の絶滅) ・いろいろな環境問題 (騒音、地盤沈下、環境ホルモン) ・自然保護	講義
5	自然観察	・姫路城周辺の植物 ・書写山の植物	講義
6	自然と健康	・森のはたらき (動植物の利用、危険な動植物)	講義
7 8	自然と文化	・暦法と24節気・年中行事の意味 (自然に対する人間の畏敬の念とその行為) ・死亡診断以後の儀式の意味 (仏教における枕経・通夜・葬式・満中陰の意味)	講義 講義

発展科目： 看護の対象である人間と人間をとりまくものの関係や影響を理解する基礎となる

テキスト： 資料

成績評価： 講義への参加態度やレポートなどを用いて評価する

2014.3 改訂
2020.3 改訂

科目名 情報収集と管理

授業科目の区分 基礎分野

履修対象 1年次 前期

単位 1単位 30時間

担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 2名

授業概要 情報化社会に適応できる能力を身につける。
 情報収集の方法として、文献検索の方法や、N I E（Newspaper in Education：教育に新聞を）、著作権などの情報管理について理解する。
 又、医療の現場においても、電子カルテなどコンピュータを扱う知識がますます重要になってきている。基礎的な知識を学び、実際にコンピュータを操作して、基本的な技能を身につける。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	N I Eについて	N I Eの意義 N I Eの実践 新聞を知る・新聞で学ぶ・新聞を作る	講義・演習 演習
3 4 14	コンピューターとは Windowsの基本的操作 情報管理	コンピュータの構造、 デジタルデータについて Windowsの基本的な操作 Wordの基礎 Excelの基本操作・演習 プレゼンテーションの基本 Internetについて コンピュータのセキュリティについて 個人情報保護について	講義 演習 講義
15	文献検索	文献検索の目的を理解する。 文献検索の方法を学び、実際に演習を行なう。	講義 演習

発展科目： 全科目

テキスト： プリント

看護研究のための文献検索ガイド第4版 日本看護協会出版会

成績評価： レポート

コンピュータの演習における課題、小テスト（個人情報保護）

グループワーク・演習・参加度

科目名 思考のレッスン

授業科目の区分 基礎分野

履修対象 1年次前期

単位 1単位 30時間

担当講師 非常勤講師

授業概要

本科目では、以下の能力について涵養する。

①質問する力

②批判的思考能力＝大切なものを選び出す力(吟味する、はっきりさせる、系統立てる、論理立てる、分析する、一般化する、仮説を立てる、与えられている選択肢を検証する、予想するなど)

③創造的思考能力(アイデアを作り出す、他の方法を見つけ出す、柔軟性、多様なアプローチができる、前提を疑ってみるなど)

④論理的思考能力

⑤自己調整学修力(自己教育力)

⑥メタ認知

授業計画

回	項目	内容	方法
1	ガイダンス	・本科目の進め方 ・哲学的ディベートに向けて ・思考のレッスン(問に向き合う) ・「滅びゆく地球」に関して	
2・3	テキスト①「思考の整理学」に関して	テキストをもとにそれぞれのテーマについて討論	グループdiscussionと問答
4・5	テキスト②「Why型思考」に関して		
6・7			
8・9	省察力の育成①	・看護におけるリフレクション(テキスト③の第1・3章をもとに)	グループdiscussionと問答
10・11	省察力の育成②	・リフレクションに必要なスキルの修得(テキスト③の第1・3章以外をもとに)	
12・13	哲学的ディベート	・代理出産について(肯定派3グループ対反対派3グループ) ・デザイナーズベビーについて(肯定派3グループ対反対派3グループ)	肯定派vs否定派に分かれてディベート
14・15	まとめ	・「考える」とは? 「わかる」とは? 「学ぶ」とは? 「WHY型思考」とは?	

発展科目: 全科目、とりわけ臨地実習・EBNの実践

テキスト: ①外山滋比古:思考の整理学. ちくま書房、1986.
 ②Why型思考(オリジナルテキスト). (別途購入)
 ③メラニー・ジャスパー著、中田康夫/光成研一郎/山崎麻由美 監訳:
 ナースのための反省的実践. ゆみる出版、2014. (別途購入)

成績評価: 学修の凝縮ポートフォリオと自己評価を課題として提出されたレポートと、ディベートの内容をもとに総合的に評価する。

2020.2改訂

科目名 外国語1【日常英会話】
 授業科目の区分 基礎分野
 履修対象 1 年次 前期
 単位 1 単位 30時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要 To build confidence and ability in English

4

授業計画

回	項目	内容
1	Introductions	Names, nicknames, spellings, reminders, introducing others
2	Getting to know you	Majors, hobbies, family names, titles, listening, spelling dictation
3	Phone numbers	Numbers, dictation, pair work, getting someone else's number, mistakes
4	More information	Correcting mistakes, punctuation, email, review, pair work
5	Telling time	Asking / telling time, pair dictation, make conversations
6	Weekdays	Weekdays, 6 questions, group Q & A, getting around, using “usually”
7	Geography	Japan geography, hometowns, schwa, world geography, dialogue
8	Describing Places	Where is ___, match descriptions, writing, cloze, hometown questions
9	Talking about food	ID / write foods, getting meaning, favorites, ingredients, listening
10	More about food	Work in groups, drinks, cloze, interview others about food
11	Frequency	Adverbs of frequency, chose the adverb, “How often___?”, group work
12	Dates	Ordinals, months, Q & A, dates, dictation, fill in 4 Qs, work in groups
13	Music	Genres, dialogues, like / dislike, musical instruments
14	Can / can't	Can/can't, listening, “Can you ___?”, dialogue, fill in 4 Qs, group work
15	Family	Family members, dialogues, comparatives / superlatives, more / most

発展科目 : 外国語2・3・4
 テキスト : Getting Into English はじめよう英会話 NAN'UN-DO
 資料
 成績評価 : クラス内での活動
 ・授業意欲/会話の実践練習(35%) ・グループワーク(35%)
 ・人物紹介のスピーチ(15%) ・講師を相手に会話の実践練習(15%)
 ペーパーテスト(リスニング含む)
 ・リスニング(数) (30%) ・文法/筆記(短文) (40%) ・読解(10%) ・単語(20%)

2020.3改訂

科目名 外国語 2 【日常英会話】
 授業科目の区分 基礎分野
 履修対象 1年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要 To build confidence and ability in English

授業計画

回	項目	内容
1	Family 1	Family members, adjectives, comparatives / superlatives, more / most
2	Family 2	Sentence making with compar. / superl. Getting to know families.
3	Catching Up	Regular / irregular past tense. Review adv. of frequency. Reactions.
4	Your Weekend	Keeping a journal. Responding to, "How was your weekend?"
5	Movies	Genres, describing movies. Being critical.
6	Qualifiers	Better descriptions using adjective qualifiers. Dating in English.
7	英語 vs. English	Romaji. Not-so-foreign words. Japanese English. Talk about movies.
8	Weather	Talking about weather. Making a forecast. The 6 seasons. Health.
9	Staying Healthy	Lifestyle questions. Taking a poll. Review the weather.
10	The modern world	Electronics. Money talk. Using big numbers (>1,000).
11	More Money	Practice asking and answering about money. L337speak.
12	More Technology	Conversation practice. Resources for studying English.
13	Experiences	Past Participles. Asking, "Have you ever...?" Other languages.
14	Traveling	What have you done? What can you do? What would you like to do?
15	Review	Comprehensive course review.

発展科目 : 外国語3・4
 テキスト : Getting Into English はじめよう英会話 NAN'UN-DO
 資料
 成績評価 : クラス内での活動
 ・授業意欲/会話の実践練習(35%) ・グループワーク(35%)
 ・夏休みについてのスピーチ(15%) ・講師を相手に会話の実践練習(15%)
 ペーパーテスト(リスニング含む)
 ・リスニング(会話) (30%) ・文法/筆記(エッセイ) (40%) ・読解(10%) ・単語(20%)

科目名 外国語 3 【医療英会話】

6

授業科目の区分 基礎分野

履修対象 2 年次 後期

単位 1 単位 30 時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 看護場面の英会話を学び、医療英語の基礎的能力を身につける。

回	項目	内容	方法
1	Introduction 問診を始める	・ 自己紹介 ・ 問診	原則、テキストに沿って講義を進めるが、適宜ペアワークやロールプレイを実施し、会話の訓練を行う。また、毎回、前回の復習小テストを実施し、語彙などの定着をはかる。
2	The outpatient Ward 主訴、症状	・ 症状の英語	
3	The outpatient Ward 受診手続き	・ 検査室名	
4	The Inpatient Ward 入院準備、病棟	・ 病棟名 ・ 入院に必要なもの	
5	The Inpatient Ward 検査	・ 検査に必要な表現 ・ 英語の数字	
6	The Elderly 診療科 ①	・ 診療科名 ・ ロールプレイ	
7	The Elderly 診療科 ②	・ 診療科名復習	
8	People with Disabilities 日常の健康管理	・ 日常の健康管理 ・ ロールプレイ	
9	People with Disabilities 日常生活動作	・ 日常生活動作 ・ 生活補助手段	
10	People with Disabilities 病歴 ①	・ 病気を英語で ・ ロールプレイ	
11	People with Disabilities 病歴 ②	・ 病名の復習 ・ 病名追加	
12	A Nurse's Job 治療、処置 ①	・ 治療、処置に関する英語	
13	A Nurse's Job 治療、処置 ②	・ 治療、処置に関する英語	
14	A Nurse's Job 薬の服用	・ 薬の名前を英語で	
15	総復習		

発展科目：外国語 4 ・ 災害看護論 ・ 災害医療論

テキスト：英語でつなぐ世界といのち 医学英語シリーズ③

看護師たまごの英語40日間トレーニングキットワークブック【基礎編】アルク

成績評価：ペーパーテスト、オーラルテスト、他

2020.2改訂

科目名 外国語 4 【医療英会話】

授業科目の区分 基礎分野

履修対象 3 年次 前期

単位 1 単位 30 時間

担当教師 非常勤講師 2名

授業概要 看護場面の英会話を中心に医療英語を学び、国際活動ができる基礎的能力を身につける。
国際救護について体験者の講演から学ぶ。

7-1

回	項目	内容	方法
1	国際看護学とは	1) 国際看護学の定義 2) 国際看護学に関する基礎知識	テキストに沿って講義、随時具体例等を用いてイメージしやすいようにする。
2	グローバルヘルス	1) 保健医療分野の開発理念の変遷 2) 世界の健康問題の現状	
3	国際協力のしくみ	1) 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 2) 国際救援の調整 3) 開発協力	
4	文化を考慮した看護	1) 看護理論 2) 在日外国人への看護の実践	
5	国際看護活動について	1) 国際看護活動の展開過程 2) 開発協力と看護 3) 国際救援と看護	
6	国際救援・開発協力活動事例紹介	体験者による外国語を交えた講演	映像等を使ってイメージしやすいようにする。
7	国際救援・開発協力活動事例紹介	体験者による外国語を交えた講演	
8	Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートする Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する	初診時の登録方法や患者の生活習慣について質問の仕方を学ぶ。生年月日や職業、緊急連絡先等や食生活、睡眠、喫煙習慣等について質問し、受診前の患者の基本情報や健康状態を生確認把握する。 患者本人や家族の病歴についての応答を学ぶ。患者の健康状態への理解を深めるために、アレルギーの有無や既往歴等に関する情報を正確に聞きとる。	テキストに沿って講義 ペアワークやロールプレイを入れる音声教材を使用し、正しい発音を聞く
9	Assessing Patients' Symptoms 病状や症状をアセスメントする Taking Vital Signs バイタルサインを確認する	患者が訴える主訴やその症状、その経過についてのアセスメントについて学ぶ。感染症の症状や診療科目ごとによく聞かれる主訴も把握しておく。 バイタルサインを計測することで患者の正確な健康状態を把握する。	
10	Taking a Specimen 検体を採取する Conducting Medical Examinations 検査の注意や指示をする	患者の検体を採取するためのやり取りを学ぶ。 患者が検査を受ける場合には、看護師にはその手順などを詳述することが求められる。さらに実際に検査を行う際には、必要な指示を患者に与え、適切な声掛けをして、患者に不安や負担をかけないことが大切である。	

回	項目	内容	方法
11	Assessing Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスする	患者の痛みへの対応の仕方を学ぶ。痛みの部位、期間、程度、変化などを患者からしっかり聞きとることが、より適切で効果的な治療へとつながる。 薬の服用方法や副作用の説明、薬の種類について学ぶ。薬の5原則を意識しながら、与薬の際にコミュニケーションを練習する。	テキストに沿って講義 ペアワークやロールプレイを入れる音声教材を使用し、正しい発音を聞く
12	Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助・援助する Maintaining a Good Diet 栄養と食餌についてアドバイスする	自分で体を動かすことが困難な患者が動けるようになるための運動や訓練を援助する際の表現を学ぶ。患者の意欲を高め、積極的にトレーニングに取り組めるよう援助する。 検査結果やケアプランに基づいて患者に健康指導するときの表現を学習する。一日に必要なカロリーや摂取制限など、食餌・栄養に関する患者指導の表現を習得する。	
13	Caring for Inpatients 入院患者のケアをする Coping with Emergenies 緊急事態に対処する	入院中の患者へのケアに関する表現を学ぶ。手術前の注意、病院の規則や洗髪、足浴のときの表現を覚え、患者に必要な情報やケアを提供できるようにする。 救急患者への対応を学ぶ。救急救命室に搬送された患者やその家族に対して、あるいは外出先で遭遇した傷病者に対してどのように対応するのか確認し、救命救急のためのアルゴリズムを習得する。	
14	実習で学んだことについて 英語でスピーチ	看護学実習で感じたこと、学んだことについて英語でスピーチする	
15	実習で学んだことについて 英語でスピーチ	看護学実習で感じたこと、学んだことについて英語でスピーチする	

発展科目：外国語・災害看護論・災害医療論

テキスト：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院
Caring for people

成績評価：スピーチの評価、ペーパーテスト他

2019.3 改訂

科目名 人権と赤十字
 授業科目の区分 基礎分野
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要

8

赤十字を担う看護師として、一人一人が「人道」に基づく判断を自律的になし「人権」を尊重しつつ献身的行動ができるようになること。それが本授業の目標である。したがってまずは、そもそも「倫理（善悪の判断）とは何か」について考察する。次に、教科書から「赤十字の基本原則」について学び、その原則にあって医療現場で「人権」を尊重することとはどういうことかについて学び、赤十字がそれに基づく意義と重要性そしてその卓越性を理解したい。最後に、今日医療現場で起こっている「倫理的諸問題」を確認する。以上の授業内容を現実問題として把握しやすいように数回VTRを使用する。また「感想文」を書いてもらい、各自自らに突き付けられた問題として積極的に考えてもらう。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	倫理	授業についての説明 ・イドラ論【思い込みの自覚】	授業は基本的にノートを取る講義形式。 授業最後に感想文を書いてもらう。 また授業への理解を深めるためにVTRを見てもらう。
2	《VTR①》	・「選択しているのはあなた自身？」 (NHK 公開講義アイエンガー教授)	
3		・倫理とは ・慣習倫理と自律倫理	
4		・日本人の倫理上の問題点 ・倫理とethics	
5	人権	・生命倫理とは ・人権とは	
6	《VTR②》	・「相模原障害者施設殺傷事件について」 (NHK こころの時代 辺見庸)	
7, 8	赤十字の基本原則	・赤十字の歴史と原則 (『赤十字と国際人道法』より)	
9	《VTR③》	・「中村哲とアフガニスタン」 (NHK特集～武器ではなく命の水を～)	
10, 11		・人道 (『赤十字の基本原則』より)	
12, 13		・公平 (『赤十字の基本原則』より)	
14, 15	医療倫理	・インフォームド・コンセント、安楽死 他 (『看護のための生命倫理』より)	

*上記の講義内容は、入れ替わるなど少し変更される可能性がある。

発展科目：

テキスト：『赤十字と国際人道法 普及のためのハンドブック』 日本赤十字社

『赤十字の基本原則』 赤十字看護研究会

『看護のための生命倫理』 小林亜津子著 ナカニシヤ出版

参考書：『赤十字のしくみと活動 平成30年度版』 (1年次購入)

『ソルフェリーノの思い出』 (1年次購入)

その他の参考書は授業内で適宜紹介

講義形式：講義内容をノートに取る。VTRを見て設問に答える・感想を書く。

成績評価：授業への取り組み・姿勢、授業内課題、期末レポート

2020.12 改訂

科目名 人間関係論

9

授業科目の区分 基礎分野

履修対象 2年次 前期

単位 1単位 30時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 人は普通ヒトではなく、「人間」と標記する。「人間」という文字通り人は他者との関わり合いの中で生きる極めて高度に社会化された生き物である。個体として完全であっても他者との関係性が不健全な場合、健康的な生活、その人らしい生き方を営むことはできない。本講義では主に臨床心理学、社会心理学の観点からコミュニケーションや対人関係について理解を深めることを目的とする。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	イントロダクション 社会的動機付け	講義概要、狙いについて説明する 主な学習基礎について概説する	講義、演習 グループワーク (討議と発表) ビデオ
2	グループワーク1討議	「理想の看護」について討議、分類する	
3	グループワーク1発表	前回の討議・分類結果の発表と評価	
4	カウンセリング1	カウンセリングの原理	
5	カウンセリング2	カウンセリングマインド 各種心理療法	
6	カウンセリング3	森林療法と注意回復理論	
7	自己と社会1	社会的態度とその変容	
8	自己と社会2	個人と社会の関係	
9	自己と社会3	対人魅力	
10	攻撃と援助	攻撃行動、援助行動の分類、要因	
11	リーダーシップ	主なリーダーシップ論について理解する	
12	ターミナル	ターミナルのビデオの鑑賞と感想	
13	グループワーク2討議	前回見たビデオをデスエデュケーションに活かす	
14	グループワーク2発表	前回の討議・分類結果の発表と評価	
15	全体のまとめと補足		

発展科目：人間と人間の関係について学び、患者、家族、他の医療者理解の土台としたい。

テキスト：使用しない。ほぼ毎回プリントを配布する。

参考書：明田芳久・岡本浩一・奥田秀宇・外山みどり・山口勸 1998 ベーシック現代心理学7
社会心理学 有斐閣

山口創 2001 よくわかる臨床心理学 川島書店

成績評価：グループワーク発表の評価、期末テスト

2017.3改訂

科目名 臨床心理学
 授業科目の区分 基礎分野
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要

10

看護を行ううえで患者を理解することは不可欠である。心の健康なくして肉体の健康は成立しないため、そのような患者の心理を考える上で、基礎となる心理学について学び、人間心理を内側から見つめ、より患者の理解を深める。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 5 7	人間の心理を理解するための基礎 感覚・知覚の心理 記憶の心理 感情・記憶の心理 性格・知能の心理 発達心理 社会・集団の心理	感覚・知覚 記憶のしくみ 日常記憶・高齢者の記憶 感情・情緒・動悸・欲求 性格に関する概念・パーソナリティの障害と成熟・知的機能と創造性 各発達段階と心理発達問題 対人認知・社会的態度・集団心理	講義・演習
8 5 15	医療場面での人間理解 健康の心理と人間理解 心理アセスメントと面接 カウンセリングと心理療法 行動する人間の理解	患者・家族の理解 「病と共に生きる」 「病気を引き受ける」 看護職者の理解 感情労働 ケアリング 心理アセスメント 面接の技法 受容・共感・聴く・見る・触れる 援助のプロセス 精神分析的な心理療法・行動療法・ 交流分析・グループアプローチ・ 家族療法他 行動とは何か 人間の行動の原因とは 行動科学の医療現場での実践	講義・演習 闘病記抄読

発展科目： 看護の対象である患者の心理を考え、看護を考える土台となる。

テキスト： 新体系看護学全書 基礎科目 心理学 メディカルフレンド社

成績評価： 試験・参加度

科目名 人間と社会
 授業科目の区分 基礎分野
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要

11

「社会」は行為、行動、社会的相互作用といったものから、家族、地域、組織、社会構造やその変動に及ぶものまでさまざまであり、人間を取り巻く「社会」とは何かを理解する。このことから、看護的な関わりにおいて、患者の家族関係や家庭的状況、社会的立場などを理解し、配慮することが患者理解の深まりに繋がることを学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 ～ 2	社会と社会学	社会、社会集団、社会規範、流行・同調、社会化 伝統社会と近代社会の違い、現代社会の特徴と 社会変動の方向・考察	講義 学生自らの日々の生活や 身近な地域社会から考える
3 ～ 4	社会を構成する単位	地域社会、仲間友人集団、社会階層	
5 ～ 6	職業の世界	職業、資格、学歴、就職、職場、転勤、社宅、 家業の世界	
7 ～ 15	家族	家族の社会的な意義と機能 近代家族の誕生と変容 結婚・離婚・夫婦のあり方 高齢化社会の現在、老親のケア等、高齢者と家族 親子関係 虐待、荒れ、いじめ、発達障害のある子どもの育ちについて 支えを失った家族に対する社会的支援について 家族の今後のあり方	家族について書かれた 評論について読む

発展科目： 看護の対象である、人間を取り巻く社会について、またその影響を学び、看護を考える土台としたい。

テキスト： 資料

成績評価： レポート課題・参加度

2012.3改訂

科目名 音楽

授業科目の区分 基礎分野

履修対象 1年次後期

単位 1単位 15時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 「歌唱表現の意義と方法」を学ぶ事を通し、多様な表現方法について各自の可能性を追求する。
さまざまな曲に触れる（演奏する／鑑賞する）ことにより広く芸術全般に対する美的直観力を養い教養を高める。

12

授業計画

回	項目	内容	方法
1	授業の概要、目的	オリエンテーション、授業の進め方	演習
2～ 14	発声や歌唱の基本、表現力などを学ぶ 歌唱練習	発声法について （姿勢・呼吸法・発音法） 歌唱法について （メロディーの歌い方、表現方法） 季節の歌、癒しの歌、行事の歌など グループで課題の発表	
15	実技発表	個人で課題の発表	

発展科目：身体を使って表現することが、看護の基盤となる

テキスト：特に定めない。適宜プリント配布

成績評価：発表・授業に臨む姿勢等により総合的評価

2019.3改訂

科目名	体 育
授業科目の区分	基礎分野
履修対象	1年次前期
単位	1単位 30時間
担当講師	非常勤講師
授業概要	スポーツ・エクササイズを通して身体活動に関する知識を獲得する。 心身における健康の維持増進の重要性を理解する。

授業計画

回	月/日	項 目	内 容	場 所
1	4月16日	オリエンテーション ストレッチング	授業の流れを説明 身体をほぐす	学校
2	4月23日	ウォーキング	有酸素運動	手柄周辺
3	5月14日	体力測定	体力と運動能力について	スポーツ会館 剣道場
4	5月21日	ボールエクササイズ①	ソフトバレー	スポーツ会館 競技場
5	6月4日	ボールエクササイズ②	ソフトバレー	スポーツ会館 競技場
6	6月11日	ボールエクササイズ③	バレー	スポーツ会館 競技場
7	6月18日	ボールエクササイズ④	バレー	スポーツ会館 競技場
8	7月2日	転倒予防体操	講義	学校
9	7月9日	転倒予防体操	椅子を使った運動（実技）	学校（実習室）
10	7月16日	転倒予防体操	発表（実技）	学校（実習室）
11	8月27日	レクリエーション		スポーツ会館 剣道場
12	9月3日	グループエクササイズ	多人数での有酸素運動	スポーツ会館 剣道場
13	9月10日	ダンス発表	グループごとに創作ダンス発表	スポーツ会館 剣道場

なし

テキスト等 成績評価 コメント	授業への取り組み、作品発表を総合的に評価 学校外の施設で行います。 動きやすい服装とシューズ、タオル、水分補給のための飲料を準備してください。
-----------------------	---

科目名	生活行動からみたからだ-1【生活行動 息をする】
授業科目の区分	専門基礎分野 人体の構造と機能
履修対象	1年次前期
単位	1単位 30時間
担当講師	専任教師 2名
授業概要	からだにとって「息をする」ことは、酸素を体細胞に取り入れて、細胞内で酸化してエネルギーをつくり出すことと、その結果できた二酸化炭素を体外に排出することである。また、体内に取り込まれた酸素を細胞まで運ぶ役割を担うのが循環系であり、人体が活動する上で欠かすことのできないものである。 呼吸・循環に関する諸器官の解剖をふまえ、人体での役割や意義を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	I. 生活行動とは	生活行動とは	講義
2	II. 息をするとは 1. 呼吸器系 1) 呼吸器の構造	呼吸の意義 上気道の構造と機能	講義 GW
3		下気道、肺と肺胞の構造と機能 胸膜・縦隔	
4	2) 呼吸運動	内呼吸と外呼吸 呼吸のメカニズム 呼吸器量	
5	3) ガス交換とガスの運搬	ガスの交換とガスの運搬 酸塩基平衡	
6	4) 呼吸運動の調節 5) 呼吸障害による症状	呼吸の調節	
7	6) 呼吸器系の病態生理	換気障害など (閉塞性換気障害、拘束性換気障害)	
8	呼吸器まとめ		
9	2. 循環器系 1) 循環器系の構成 2) 心臓の構造	循環の意義と呼吸との関連 心臓の構造・心臓の血管と神経	講義 GW
10	3) 心臓の拍出機能	刺激伝導系と心電図 心臓の収縮	
11	3) 心臓の拍出機能	心周期・心音	
12	4) 末梢循環系の構造	血管の構造 肺循環の血管 体循環の動脈と静脈	
13	5) 血液の循環の調節	血圧や血流量の調節	
14	5) 血液の循環の調節	微小循環 循環器系の病態生理	
15	6) リンパとリンパ管 7) 胎児循環 循環器まとめ	リンパとリンパ管 胎児循環	

発展科目: 病態生理学-1 専門分野 I、II

テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
看護形態機能学 生活行動からみるからだ(第4版) 菱沼典子 日本看護協会出版社

成績評価: 終講時試験

科目名 生活行動からみたからだー2【恒常性維持(血液ホルモン) 発生】

15

授業科目の区分 専門基礎分野 人体の構造と機能

履修対象 1年次前期

担当講師 非常勤講師

授業概要 人体の構造の最小単位である細胞について学ぶ。また、物質の流通に重要な働きを担う血液を中心に、体液の成分と働きを理解する。
内分泌腺・ホメオスタシスの種類と働きを学び、それらの相互作用を理解して恒常性(ホメオスタシス)の仕組みを学ぶ。

授業計画

回	項 目	内 容	方 法
1	1.生命の基本単位 細胞	①生命の最小単位細胞の構造と働き	講 義
2		②生体内の物質移動	
3		③代謝とエネルギー・組織	
4	2.発生	④生殖細胞の形成	
5		⑤ヒトの発生と分化	
6	3.内部環境と恒常性	⑥体液のホメオスタシス	
7		⑦腎臓による体液量・浸透圧の調節	
8		⑧血液の組成と機能	
9	4.恒常性を維持する物質の流通-2	⑨血液の運搬と血液凝固・水素イオン濃度	
10		⑩生体の防衛機構	
11	5.恒常性維持のための調節機構-1	⑪自律神経と内分泌系	
12		⑫内分泌腺の種類と作用機序	
13		⑬視床下部による調節と甲状腺	
14		⑭膵臓・副腎による血糖量の調節	
15		⑮神経とホルモンの連携とストレス	

発展科目： 病態生理学全般、専門分野Ⅰ・Ⅱ

テキスト： 系統看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院

看護形態機能学 生活行動からみるからだ(第4版) 菱沼典子 日本看護協会出版社

成績評価： 終講時テスト

2020.3改訂

科目名 生活行動からみたからだー3【恒常性維持(神経) 話す・聞く 動く】

授業科目の区分 専門基礎分野 人体の構造と機能

履修対象 1年次前期

単位 1単位 30時間

担当講師 専任教師 2名

授業概要 からだは外部環境からの刺激をとらえ、反応する。体の調節と統合のうち、神経性調節について学ぶ。また、神経と各感覚器との関係について学ぶ。
動きのメカニズムと動くことの日常生活上の意味を考える。

16

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3 4 5	1. 恒常性維持のための 調節機構ー2 (神経性調節)	1) 人はどのように情報を得るのか(受容器) ①見る ②聞く ③におう ④触れる 2) 認識し判断し記憶する(中枢神経) ①脳 ②脊髄 3) 情報を伝える(末梢神経) ①脳神経 ②脊髄神経 ③自律神経 4) どうやって情報は伝わるのか	講義 グループ ワーク
6 7 8	2. 話す・聞く	1) 声を出す 2) 聞く・言葉	講義
9 10 11 12 13 14 15	3. 動く	1) 姿勢 ①体位と構え・肢位 ②立位の保持 2) 身体の支持と運動 ①人体の骨格の構造と機能 ②骨の連結：関節の構造・可動性 ③骨格筋の構造・作用 ④筋の収縮・反射 ⑤体幹・上肢・下肢・頭頸部の 骨格と筋 3) 日常生活での基本的な動き ①歩く ②つまむ ③表情 4) 日常生活動作における身体の動き	講義 演習 グループ ワーク

発展科目： 病態生理学全般、専門分野Ⅰ・Ⅱ

テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
看護形態機能学 生活行動からみるからだ(第4版) 菱沼典子 日本看護協会出版社

成績評価： 終講時テスト

学習態度、演習参加度

2021.3改訂

科目名 生活行動からみたからだー4【食べる トイレに行く 眠る お風呂に入る】
 授業科目の区分 専門基礎分野 人体の構造と機能
 履修対象 1年次前期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 3名
 授業概要 人間が生命を維持するために基本的に必要な、食べること、トイレに行くこと、眠ること、風呂に入るなどの生活行動を理解する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3 4 5	1. 食べる	1) 食欲と食行動 人はなぜ食べるのか 摂食・満腹中枢 2) 咀嚼・嚥下 口腔、食道の構造と機能 3) 消化・吸収 胃・小腸の構造と機能 肝臓・膵臓・胆嚢の構造と機能 栄養素と消化酵素	講義
6 7 8 9 10	2. トイレに行く	1) 排泄行動 2) 排便 排便のメカニズム 大腸・直腸の構造と機能 排便の異常 3) 排尿 排尿のメカニズム 腎臓・膀胱の構造と機能 排尿の異常 4) 体液量の調整機構 尿の成分の調整 水分出納 酸塩基平衡	講義
11 12	3. 眠る	1) 睡眠とは 2) からだのリズム 3) 睡眠の生理 睡眠の種類とパターン 睡眠に影響する因子 不眠の影響	講義
13 14 15	4. お風呂に入る	1) 垢を落とす 皮膚の構造と機能 毛髪構造と機能 2) 皮膚と付属物 3) 皮膚と粘膜 皮膚・粘膜の防御機構 4) 温まる 入浴が身体に及ぼす影響	講義

発展科目： 病態生理学全般、専門分野Ⅰ・Ⅱ
 テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 看護形態機能学 生活行動からみるからだ(第4版) 菱沼典子 日本看護協会出版社
 成績評価： 終講時テスト
 学習態度

科目名 臨床生化学
 授業科目の区分 専門基礎分野
 履修対象 1年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要

栄養学や代謝学などにつながる生体物質の代謝を理解する。また、様々な生体機能のなかで、正常を維持するためにどの物質が重要な役割を果たしているのか、正常から異常へと変化する際にどの経路が関連するのかを知り、実際の疾病がどのように生化学につながっているのかを理解する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 生化学を学ぶための基礎知識	A 生化学とは, B 生体の化学の基礎知識 C 生命とは, D 細胞の構造と機能	講義
2	2. 代謝の基礎と酵素・補酵素	A 代謝と生体のエネルギー, B 酵素の基礎知識 C 補因子, D ビタミン, E 酵素の反応速度, F 酵素の阻害	講義
3	3. 糖質の構造と機能	A 糖質とは, B 単糖の構造と機能, C 二糖の構造と機能, D 多糖の構造と機能	講義
4	4. 糖質代謝	A 糖質の消化と吸収, B グルコースの分解, C グリコーゲン代謝, D ペントースリン酸経路, E 糖新生, F ガラクトース, マンノース, フルクトースの分解, G 糖質代謝に関する遺伝性疾患	講義
6	5. 脂質の構造と機能	A 脂質とは, B 脂質の種類, C リポタンパク質	講義
7	6. 脂質代謝	A 脂質の消化と吸収, B 脂肪酸の分解, C 脂質の合成, D 脂質代謝に関する遺伝性疾患	講義
8	7. タンパク質の構造と機能	A タンパク質とは, B アミノ酸, C タンパク質の構造	講義
9	8. タンパク質代謝	A タンパク質の消化と吸収, B アミノ酸の分解, C 非必須アミノ酸の合成	講義
10	9. ポルフィリン代謝と異物代謝	A ポルフィリン, B 生体異物代謝, C 活性酸素とその除去反応	講義
11	小テスト		小テスト
12	10. 遺伝子と核酸	A 遺伝情報, B 遺伝学の基礎知識, C 核酸の構造と機能, D 核酸の代謝	講義
13	11. 遺伝子の複製・修復・組換え	A DNAの複製, B DNAの修復, C DNAの組換え, D DNA修復機構の異常による遺伝性疾患, E 遺伝子多型	講義
14	12. 転写	A 転写とは, B 転写の開始とRNA鎖の伸長, C 転写の終結, D RNAのプロセッシング, E 遺伝子の発現調節	講義
	13. 翻訳と翻訳後修飾	A 翻訳の概要, B 翻訳のメカニズム, C タンパク質の折りたたみと輸送・修飾, D 翻訳後修飾, E 細胞内輸送シグナル	講義
15	14. シグナル伝達	A シグナル伝達の概要, B 細胞内シグナル伝達の機序, C 内分泌の生化学的基盤	講義
	15. がん	A がんの性質, B 細胞周期とがん, C がん遺伝子, D がん抑制遺伝子, E 染色体転座, F がん薬物療法	講義

発展科目： 専門分野Ⅰ・Ⅱ
 テキスト： 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院
 成績評価： 小テスト
 終講時試験

科目名 疾病の理論と原理
 授業科目の区分 専門基礎分野
 履修対象 1年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 3名

授業概要 人はさまざまな疾患に罹ります。疾患の種類は無数にありますが、すべての疾患を逐一詳しく勉強していくと際限がありません。しかし、無数にある疾患も、例えば、循環障害、炎症、腫瘍…など、基本的な大まかなグループに分けることができます。まず、大まかなグループについて一般的な事柄を理解してから、個々の疾患、個々の症例についてさらに深く掘り下げていきましょう。

病態学Ⅰ（病理学総論）の講義では、大まかな疾患のグループについて、病気の発生するメカニズムを理解し、そこから症状のあらわれる理由や、診断や治療の根拠についても理論的に説明できるようになることを目標とします。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 病理学で学ぶこと	病理学とは・疾患の分類	講義
2	2. 細胞・組織の障害と修復	細胞の損傷と適応 組織の修復と創傷治癒	
3	3. 遺伝について	染色体・DNA・遺伝子	講義
4		遺伝形式と主な疾患	
5		ゲノム医療	
6	4. 循環障害	浮腫、充血とうっ血、出血、血栓症、塞栓症 虚血と梗塞、側副循環による障害、ショック 高血圧症、DIC 循環器系の主な疾患	講義
7	5. 炎症と免疫	炎症とその分類、免疫と免疫不全	講義
8	移植と再生医療	アレルギーと自己免疫疾患	
9	6. 感染症	移植と再生医療 感染と宿主の防御機構 おもな病原体と感染症 感染症の治療と予防	
	7. 代謝障害	脂質代謝障害、蛋白質代謝障害、糖尿病	
10	8. 先天異常と遺伝子異常	先天異常、遺伝子の異常と疾患 先天異常・遺伝子異常の診断と治療	講義
11	9. 腫瘍	腫瘍の定義と分類、腫瘍の広がりや影響	講義
12	10. 腫瘍各論	腫瘍の発生病理、腫瘍の診断と治療 腫瘍の統計	
13		血液・造血器系の疾患	講義
14			
15	11. 病理診断	病理検査の概要、解剖	講義

発展科目： 病理総論では、解剖生理学や生化学で学習した知識をもとに、疾患を理解するための骨組みを作ります。その骨組みの上に、それぞれの系統別看護学の講義や臨床実習を通して疾患の具体的な知識を肉付けしていきましょう。

テキスト等： 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院
 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
 講義プリント（適宜配布します）

成績評価： 終講時試験

科目名 病態生理学—1【呼吸機能障害・循環機能障害】

授業科目の区分 専門基礎分野

履修対象 1年次後期

単位 1単位 30時間

担当講師 非常勤講師 3名

授業概要 呼吸機能障害・循環機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎的知識を身につけることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1.呼吸器の看護を学ぶにあたって 2.呼吸器の構造と機能 3.呼吸器症状と看護 4.検査・治療・処置と看護 5.疾患・病態生理の理解と疾患を持つ対象の看護	①喀痰 ②血痰・咯血 ③咳嗽 ④胸痛 ⑤呼吸困難 ⑥チアノーゼ ⑦ばち指 ⑧発熱 ⑨呼吸の異常 ⑩声の異常 ⑪いびき ⑫意識障害 1) 呼吸機能障害のある対象が受ける検査と治療・処置 ①喀痰検査 ②胸水検査 ③画像診断 ④内視鏡検査 ⑤胸腔ドレナージ ⑥呼吸器外科の手術 2) 検査・治療・処置を受ける対象の看護 1) 疾患の理解 ①感染症 ②間質性肺疾患 ③気道疾患 ④呼吸不全 ⑤肺腫瘍 ⑥胸部外傷 2) 疾患を持つ患者の看護	講義
15	1.循環器の看護を学ぶにあたって 2.循環器の構造と機能 3.循環器症状と看護 4.検査・治療・処置と看護 5.疾患・病態生理の理解と疾患を持つ対象の看護	①胸痛 ②動悸 ③呼吸困難 ④浮腫 ⑤チアノーゼ ⑥めまい・失神 ⑦四肢の疼痛 ⑧ショック 1) 循環機能障害のある対象が受ける検査と治療・処置 ①心電図 ②胸部X線検査 ③心エコー法 ④心臓カテーテル法 ⑤血行動態モニタリング ⑥内科的治療 ⑦外科的治療 ⑧補助循環装置 2) 検査・治療・処置を受ける対象の看護 1) 疾患の理解 ①虚血性心疾患 ②心不全 ③不整脈 ④弁膜症 ⑤心膜炎 ⑥心筋疾患 ⑦肺性心 ⑧血圧異常 2) 疾患を持つ対象の看護	講義

発展科目 専門分野Ⅰ・Ⅱ、臨地実習

テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 医学書院

成績評価 終講時試験
学習態度

科目名	病態生理学－2【栄養代謝機能障害 排泄機能障害】
授業科目の区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進
履修対象	1年次 後期
単位	1単位 30時間
担当講師	専任教師 3名
授業概要	栄養代謝機能障害・排泄機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎的知識を身に付けることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 栄養代謝機能障害		講義
2	1) 消化管機能障害の成り立ちと症状・看護	①嚥下困難 ②吐きけ・嘔吐 ③腹痛 ④吐血・下血 ⑤腹部膨満 ⑥腹水 ⑦黄疸 ⑧意識障害(肝性脳症)	
3	2) 検査・治療・処置と看護	①糞便検査 ②肝機能検査 ③腫瘍マーカー ④超音波検査 ⑤内視鏡検査 ⑥X線検査 ⑦EIS ⑧EVL ⑨EMR ⑩ESD ⑪肝生検 ⑫RFA ⑬TAE ⑭TACE ⑮腹水穿刺	講義
4			
5	3) 疾患・病態生理の理解	(1)食物の移送障害、消化吸收障害を起こす疾患	講義
6	と疾患を持つ対象の看護	①食道がん②胃がん③胃・十二指腸潰瘍④腸閉塞	
7		(2)肝機能障害、膵臓機能障害を起こす疾患と症状	講義
8		①肝炎 ②肝硬変症 ③門脈圧亢進症 ④肝不全	
9		⑤肝がん ⑥胆石症 ⑦胆管・胆嚢がん ⑧膵炎 ⑨膵臓がん	
10		(3)糖代謝障害	講義
		①糖尿病(低血糖・高血糖)	
		②代謝異常(肥満・るいそう・高脂血症)	
11	2. 排泄機能障害		
12	1) 排便機能障害の成り立ちと症状・看護	①下痢 ②便秘	講義
	2) 疾患・病態生理の理解と疾患を持つ対象の看護	(1)排便の調節障害を起こす疾患 ①クローン病 ②潰瘍性大腸炎 ③大腸癌(結腸癌・直腸癌) ④排便経路の変更(人工肛門)	
13	3) 排尿機能障害の成り立ちと症状・検査・治療	腎・泌尿器系疾患の特徴 診察 ①病歴聴取②診察法:視診、触診 検査 ①採尿方法②24時間尿の取り方④X線検査: KUB、IP、RP、UG⑤核医学診断法:Gaシンチ、骨シンチ ⑥膀胱鏡⑦尿流動体検査:ウロフロメトリ、シストメトリ	講義
14	4) 感染	1) 疾患の理解 ①腎盂腎炎②膀胱炎③尿路結石	講義
	尿失禁	①腹圧性尿失禁②知覚性切迫性尿失禁③運動性切迫性尿失禁④反射性尿失禁⑤機能性尿失禁	ビデオ
15	5) 尿路変更	膀胱癌 ①症状②診断③治療:TUR-BT、膀胱全摘出術、化学療法、膀胱内注入療法	講義

発展科目: 専門分野Ⅰ・Ⅱ 臨地実習

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院

成績評価: 終講時試験

2021.2改訂

科目名 病態生理学－3【脳神経・感覚機能障害】
 授業科目の区分 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進
 履修対象 2年次前期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 5名
 授業概要 脳神経・感覚機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎知識を身につけることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。

22

授業計画

回	項目	内容	方法
1 5 11	I 脳機能障害 1. 脳神経の看護を学ぶにあたって 2. 脳神経の構造と機能 3. 脳神経障害の症状と病態生理 4. 検査・治療・処置と看護 5. 疾患と病態生理の理解と疾患を持つ対象の理解	①意識障害②高次脳機能障害(失語、失行と失認) ③運動機能障害④感覚機能障害 ⑤自律性のある機能の障害 ⑥頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア ⑦髄膜刺激症状⑧頭痛 1)脳神経障害のある対象が受ける検査と治療・処置 神経学的診察 ①意識状態②運動系③反射系④感覚系 ⑤脳神経系⑥高次脳機能 補助的検査法 ①CT・MRI②脳血管撮影③脳脊髄液検査 治療・処置 ①外科的治療法 開頭手術、穿頭術、脳室-腹腔短絡(シャント)術 ②内科的治療法③放射線療法 1)疾患の理解 脳疾患 ①脳血管障害②脳腫瘍③頭部外傷 ④脳脊髄液の異常 末梢神経障害 ①多発性ニューロパチー (ギラン・バレー症候群) 筋疾患・神経筋接合部疾患 ①筋ジストロフィー ②重症筋無力症 脱髄・変性疾患 ①多発性硬化症②パーキンソン病 ③筋萎縮性側索硬化症 脳・神経系の感染症 ①脳炎②髄膜炎 2)疾患を持つ患者の看護	講義
12	II 感覚機能障害 1 症状の理解	視力低下、難聴、めまい	
13	2 視機能の障害の成り立ちと検査・治療	主な疾患と治療 屈折・調節の障害、白内障、緑内障 網膜剥離、加齢性黄斑円孔 眼底検査、視野検査、硝子体手術など	
14			
15	3 聴覚・平衡機能の障害の成り立ちと検査・治療	主な疾患と治療 中耳炎、突発性難聴、メニエール病、喉頭腫瘍 オーディオメーター、平衡機能検査	

発展科目： 専門分野Ⅰ・Ⅱ 臨地実習
 テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳神経 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院
 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院
 成績評価： 終講時試験

科目名 病態生理学－4【生体防御機能障害 運動機能障害】
 授業科目の区分 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進
 履修対象 1年次後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 4名
 授業概要 病因と病変の特徴を理解し、機能障害別の病態、治療、検査について学ぶ。

授業計画

回	項目		方法
1 ～ 8	I 生体防衛機能障害 1. 生体防御機能とその障害の 成り立ち 2. 検査と治療 3. 生体防御機能障害の アセスメント	1)アレルギー 2)自己免疫疾患 3)血液・造血器疾患 1)血液検査・自己免疫・抗原吸引誘発試験 2)貧血の治療 3)後天性免疫不全症候群治療 1)身体的側面・心理社会的側面	講義 講義 講義 講義
9 ～ 15	II 運動機能障害 1. 運動器の看護を学ぶに あたって 2. 運動器の構造と機能 3. 症状と病態生理 4. 診断・検査と治療・処置 5. 疾患の理解 6. 患者の看護	1)運動器疾患患者の特徴と看護の役割 1)骨・関節・筋・靱帯 2)神経 1)形態・関節運動の異常、跛行 2)神経の障害 1)診察・診断・検査 問診・視診・触診(MMT、ROM) 2)治療・処置 1)外傷性疾患 骨折、脱臼、脊髄損傷 2)内因性疾患 先天性疾患 関節炎(関節リウマチ、変形性関節症) 腫瘍(骨腫瘍、肉腫) 骨代謝疾患(骨粗鬆症、骨軟化症) 脊椎疾患(変形性脊椎症、頸髄症、脊柱管狭窄症、 椎間板ヘルニア、側彎症) 1)日常生活行動のアセスメント 2)運動機能障害のある患者の看護 事例を用いた病態の理解 経過に応じた問題と看護介入のポイント (変形性関節症)(変形性脊椎症)	講義 講義

発展科目:専門分野Ⅰ・Ⅱ 臨地実習

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 医学書院

成績評価:終講時試験

科目名 病態生理学－5【内部環境調節機能障害 性・生殖機能障害】
 授業科目の区分 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 2名 非常勤講師 2名
 授業概要 病因と病変の特徴を理解し、機能障害別の病態、治療、検査について学ぶ。
 授業計画

24-1

回	項目	内容	方法
1	I 内部環境調節機能障害		
1	1. 内分泌機能障害の成り立ちと検査・治療	1) 内分泌機能の概要 ・ホルモンとは、作用のしくみ、分類 ・おもな内分泌腺とホルモンについて	講義
2		2) 各ホルモンの働きと分泌異常について ・下垂体ホルモン ・甲状腺ホルモン ・副甲状腺ホルモン ・副腎皮質ホルモン ・副腎髄質ホルモン ・膵ホルモン	
3	2. 体液調節機能障害の成り立ちと検査・治療	1) ネフローゼ症候群 ・病態、治療	
4		2) 腎不全 ・腎臓の働きと腎不全に関する基礎知識 ・慢性腎不全 ・腎臓の検査と手術 ・透析 ・腎移植	
5	3. 体液調節機能障害の成り立ちと検査・治療	1) 患者の特徴と看護の役割 2) 生じやすい身体的・心理的・社会的問題 3) 経過と看護	
6	II 性・生殖機能障害		
7	1. 性ホルモンの障害の成り立ちと検査・治療	1) 加齢による症状：更年期障害及び自律神経失調症 ・性ホルモンの分泌の仕組みと更年期障害の関係と治療法 2) 代謝系疾患 ・女性性腺機能障害 ・性ホルモン分泌の変化と身体・心理・社会的状況との相互作用	講義 グループワーク
8	2. 生殖機能障害の成り立ちと検査・治療	1) 炎症性疾患、器質性疾患 ・生殖機能 ・炎症性疾患、器質性疾患の原因・症状・治療 ・月経周期と健康管理 2) 性器感染症 ・性器感染症の原因・症状・治療・健康管理 3) 不妊症 ・不妊症の定義 ・女性不妊	
9			
10	3. 性・生殖器系腫瘍の成り立ちと検査・治療	病態及び治療 ・子宮頸癌、子宮体癌 ・卵巣癌	

回	項目	内容	方法
11	1. 男性生殖器の構造と機能	男性生殖器の解剖生理 精巣、精巣上体、精管、陰茎、陰嚢、前立腺	講義
12	2. 尿路の通過障害と機能障害	前立腺肥大 症状・治療 TUR-P、HoLEP 術中・術後の合併症 退院指導	
13 14	3. 尿路・性器の腫瘍	前立腺がん 症状・治療 前立腺全摘出術(開腹、ロボット支援手術) 術中・術後の合併症 ホルモン療法 退院指導 精巣腫瘍	
15	4. 男性生殖器疾患	男性不妊症 検査・治療 造精機能障害:精索静脈瘤、停留精巣 精巣腫瘍 流行性耳下腺炎に伴う精巣炎 精路通過障害:精巣上体炎、逆行性射精 性機能障害:ED、遅漏、早漏	

発展科目: 専門分野Ⅰ・Ⅱ 臨地実習

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院

成績評価: 終講時試験

科目名 感染症と微生物

25-A

授業科目の区分 専門基礎分野

履修対象 1年次前期

単位 1単位 30時間（30時間の内20時間）

担当講師 非常勤講師 2名

授業概要 目に見えない微生物と共生しているヒト。地球の生命活動を根底から支えている微生物。微生物の世界をしっかりと把握できるように、多種多様な微生物の構造・機能を理解し、微生物の基礎知識を習得する。さらに感染症の実態、予防対策社会問題になっている新興・再興感染症や公衆衛生上の諸問題まで視野に入れて微生物を捉えることができるように、特にヒトのかかわりについて講義する。
各論では、各種微生物の特徴、病原性、検査方法、治療薬などについて学び、化学療法剤については種類、薬効について学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	微生物学の基礎①	微生物とは？を起点に細菌の分類、形状、性質を知る。	講義
2	微生物学の基礎②	真菌、原虫、ウイルスの分類、形状、性質を知る。	講義
3	感染とその防御①	感染の成立から発症・治癒まで学ぶ。 生体の防御機構について学ぶ。 感染源・感染経路からみた感染症について学ぶ。	講義
4	感染とその防御②	滅菌と消毒について学ぶ。 感染症に関連した臨床検査と診断について学ぶ。	講義
5	病原性微生物	病原微生物の種類と検査方法に関して学ぶ。	講義
6	細菌学各論①	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌、好気性菌、嫌気性菌等について種類、感染、検査について学ぶ。	講義
7	細菌学各論②	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌、好気性菌、嫌気性菌等について種類、感染、検査について学ぶ。	講義
8	マイコプラズマ・リケッチア・真菌・原虫各論	マイコプラズマ・リケッチア・クラミジアや種々の真菌、原虫のなかでも病原性のあるものについて学ぶ。	講義
9	ウイルス学各論	DNAウイルス、RNAウイルスの種類、感染形態、検査について学ぶ。	講義
10	感染症の治療	化学療法剤に関して種類、薬効を学ぶ。 感染症の現状と対策に関して、監視体制を含め学ぶ。	講義

発展科目： 原疾患としての感染症（細菌・ウイルス）の理解と、院内感染を含む医療安全、感染対策の基礎知識となる。また、微生物検査のみならず、感染症に関連した臨床検査学についても学ぶ

テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学 医学書院

成績評価： 小テスト、終講時テスト

2015.3改訂

科目名 感染症と微生物

授業科目の区分 専門基礎分野

履修対象 1年次前期

単位 1単位 30時間（30時間の内10時間）

担当講師 非常勤講師 2名

授業概要 医療を取り巻く感染症の問題は、新興・再興感染症、国境なき感染症、人畜共通感染症など、グローバルになっている。医療従事者には微生物学的知識を持った上で、自分自身も患者も守ることが求められる。

そこで、感染症の原因となる病原微生物について理解し、看護に必要な感染症の予防と治療に関する基礎知識、援助方法を習得する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	感染症についての知識	1) 感染症の変遷と現状 2) 感染予防の意義 3) 感染症に関する法律 感染症法に基づく感染症の分類 4) 感染症を成立させる要素と成立過程 感染経路 感染成立の輪 感染予防の3原則	講義 *既習の講義内容を想起させる
2	感染予防策	1) 手洗いの基本 2) 標準予防策 (スタンダードプリコーション) 3) 感染経路別予防策 4) 医療廃棄物の取り扱い バイオハザードマーク 5) 洗浄・消毒・滅菌	講義 実物の提示
3	感染予防の看護技術	1) 手洗い 衛生学的手洗い 2) スタンダードプリコーション マスク、ガウンテクニック グローブ	演習 *既習の講義内容を想起させる
4	感染に対する生体防御機構	1) 免疫について 2) ワクチン 3) 化学療法 4) 適切な飲食・排泄・活動休息への援助	講義
5	感染予防における看護師の責務と役割	感染症に関する事例検討 感染症発症時の対応	講義 グループディスカッション

発展科目： 生活を整える-1・2、臨床看護総論、診療の補助技術などの基礎看護学を始め、生体防御機構、公衆衛生学、医療安全など医療に携わるための礎となるものである。
臨地実習全般

テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院

成績評価： 終講時試験
学習態度、演習参加度

科目名 薬剤学

授業科目の区分 専門基礎分野

履修対象 1年次 後期

単位 1単位 30時間

担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 2名

授業概要 薬物治療の基礎的知識を学ぶ。
薬物療法の目的を理解し、安全な薬物の取り扱いができる。

26

授業計画

回	項目	内容	方法
1 }	1. 薬物による病気の治療	・薬物治療の歴史 ・薬物治療における看護師の役割	講義
4	2. 薬が作用するしくみ	・薬物受容体など	
	3. 薬物の体内動態	・薬物の投与経路 ・薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄） ・薬物動態の指標：半減期、TDMなど	
	4. 薬物相互作用	・薬物の相互作用の種類	
	5. 薬効に影響を与える因子	・小児・高齢者・妊婦・遺伝子多型	
	6. 薬物使用の有益性と 危険性	・薬物の有効量・中毒量、用量反応曲線 ・薬物の副作用、薬剤耐性	
	7. 薬と法律	・医薬品に関する法律と取扱い ・医薬品使用時の注意（処方箋、添付文書） ・新薬の開発	
5	8. 薬物に関する医療事故	・事例検討	グループワーク
6	薬剤部の見学	・調剤の実際を見学 ・課題学習	演習・講義
7 }	1. 抗感染症薬	・感染症治療に関する基礎事項 ・抗菌薬・抗ウイルス薬	講義
15	2. 抗がん薬	・眼治療に関する基礎事項 ・抗がん薬各論	
	3. 免疫治療薬	・免疫抑制薬、免疫増強薬 ・予防接種薬	
	4. 抗アレルギー薬 抗炎症薬	・抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬 ・ステロイド性・非ステロイド性抗炎症薬	
	5. 末梢での神経活動に作用 する薬物	・交感神経作動薬・副交感神経作動薬 ・筋弛緩薬・局所麻酔薬	
	6. 中枢神経系に作用する 薬物	・全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬 ・向精神薬	
	7. 循環器系に作用する 薬物	・抗圧薬、利尿薬 ・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬 ・血液に作用する薬物	
	8. 呼吸・消化器・生殖器系 に作用する薬物	・気管支喘息治療薬 ・消化性潰瘍治療薬 ・性ホルモン、子宮収縮薬	
	9. 物質代謝に作用する薬物	・糖尿病治療薬 ・治療薬としてのビタミン	
	10. 皮膚科用薬 眼科用薬	・皮膚に使用する薬物 ・眼科外用薬（点眼薬）	学習課題
	11. 救急時に使用する薬物	・救急蘇生時・急変時に用いられる薬物 ・急性中毒に対する薬物治療	
	12. その他の薬物	・漢方薬 ・消毒薬 ・輸液製剤・輸血剤	

発展科目：看護学全般

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院

成績評価：終講時試験

2020.3改訂

科目名 治療論－１【栄養食事療法】

授業科目の区分 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

履修対象 1年次 後期

単位 1単位（30時間の内16時間）

担当講師 非常勤講師 2名

授業概要 生活習慣病が大きな健康問題になっているわが国において食習慣の改善は重要な課題である。また食の情報が氾濫する中で、正しい知識を持ち何が健康によいのかを判断する能力が求められている。ここでは臨床栄養学の基礎知識を理解し、看護対象者の生活や健康状態に合った食生活の援助方法を見極め、実践できる能力を養う。また関連職種の中での看護師の役割を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法	
1	食事療法の実際	治療食の実際の見学・試食	演習	
2	臨床栄養学の基礎知識	①人間栄養学と看護	講義	
3		②栄養素の種類とはたらき		
		③食物の消化と栄養素の吸収・代謝 ④エネルギー代謝 ⑤食事と食品		
4	栄養ケア・マネジメント	①栄養状態の評価・判定	講義	
	ライフステージと栄養	①人生各期における健康生活と栄養		
5	臨床栄養	①栄養補給方法 ②疾患・症状別栄養食事療法	講義	
6	健康づくりと食生活	①食生活の変遷と生活習慣病の予防 ②食の安全性と表示		
8				

発展科目： 疾患に対応した適切な栄養補給法の実践は治療の基礎となり、看護学の基礎となる。

テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院
系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院

成績評価： 終講時試験・レポート・参加度を加味する。

科目名 治療論 ー1【手術療法と麻酔】
 授業科目の区分 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進
 履修対象 1年 後期
 単位 1単位 (30時間の内14時間)
 担当講師 非常勤講師 3名
 授業概要

手術を受ける患者は、不安・恐怖・緊張・葛藤などを感じながら、麻酔、創傷、出血、疼痛、低体温など多くの刺激を受ける。麻酔は本来これらの刺激をコントロールするために用いられるものであるが、その作用と副作用によって様々な生体反応を示す。ここでは、手術療法を受ける患者の基礎的知識として、麻酔、手術侵襲と生体の反応、輸液療法、輸血療法、疼痛管理について学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 ～ 4	1. 麻酔法	麻酔の種類 術前管理 術中管理 術後管理 全身麻酔 局所麻酔 脊髄くも膜下麻酔 硬膜外麻酔	講義
	2. 呼吸管理	酸素療法 人工換気	
	3. 体液・栄養管理	体液管理と輸液 栄養管理	
	4. 輸血療法	輸血実施手順と過誤防止策 輸血医療の危険性	
	5. 疼痛管理	術後疼痛の基礎 術後疼痛が生体に及ぼす影響とその関係 術後鎮痛法の適応と利点・欠点 新しい術後疼痛管理法	
	6. 救急医療	ショック 救急処置	
5	7. 緩和医療	緩和医療と緩和ケア	
6 7	手術療法を必要とする 患者の看護	術中看護 外科患者のアセスメント	講義

発展科目： 手術療法を受ける患者への看護の基礎的知識および看護学の基礎となる

テキスト： 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

成績評価： 終講時試験・レポート・参加度を加味します

科目名 治療論 ー2【主な検査】
 授業科目の区分 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 4名
 授業概要 臨床検査・X線診断・内視鏡検査のプロセスを知り、看護師の役割を学ぶ
 授業計画

回	項目	内容	方法
1	臨床検査とその役割	・現代科学と医療 ・診療における臨床検査の役割 ・臨床検査の種類 ・臨床検査の評価 ・臨床検査の戦略と技術の動向	講義
	臨床検査の流れ	・臨床検査の流れ ・臨床検査の準備 ・患者に対する説明 ・検体の採取法、保存・移送法 ・検査による危険とその防止策	講義
2	臨床検査各論	・一般検査(尿・便・体液・髄液・関節液・消化液)	講義
3		・血液検査、化学検査、免疫血清検査、病理検査 生理機能検査	
4	臨床検査の実際	・生体検査、検体検査、形態検査の実際	演習
5			
6	放射線医学の成り立ち X線診断	・放射線の発見 ・診断に利用されるX線の性質 ・X線検査の種類 ・各臓器のX線検査	講義
7	血管造影	・血管造影の成り立ち ・各臓器の血管造影	
	IVR	・血管系におけるIVR ・血管以外の臓器におけるIVR	
	MRI	・MRIの特徴 ・各臓器のMRI	
8	核医学診断	・核医学検査の放射線物理 ・核医学検査と体外測定法 ・各臓器の核医学検査	
	放射線治療	・人体に対する放射線の影響 ・放射線治療総論 ・放射線治療の方法	
9	放射線防護と健康管理	・放射線障害 ・放射線防護の基本と健康管理	
10	放射線診断の実際	・X線診断時の放射線防護	
11	放射線治療の実際	・一般検査、造影、CT、MRI、核医学検査 ・リニアック	演習
12	内視鏡検査	・胃カメラ、大腸ファイバー	講義
13		・バイオプシー	
14	内視鏡的治療	・内視鏡的硬化療法	
15	内視鏡検査・治療の 実際	・内視鏡室	演習

発展科目: 検査・治療を受ける患者の基礎的知識として、看護学の基礎となる
 テキスト: 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院
 資料
 成績評価: 演習参加度
 終講時試験

科目名	災害医療論
授業科目の区分	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度
履修対象	1年次前期・後期
単位	1単位 30時間
担当講師	藤田美佐子(4時間)・救急法指導員(20時間)・トレーニングセンター(6時間)
授業概要	災害および、災害医療に関する基礎的知識を理解する。 災害が人々の健康と生活に及ぼす影響を理解する。 防災意識を高める。 災害医療活動に参加できる基礎的能力を習得する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 災害看護学を学ぶ意義 2. 災害看護の歩み 3. 災害医療の基礎知識	1) 災害被害の国際化 2) 近年の国内外の災害 3) 災害看護の役割 4) 人道支援の原則 1) 災害看護の始まり 2) 看護の役割の拡大 1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康障害 災害後のストレス・災害関連死 被曝が身体に及ぼす影響	講義 パワーポイント 資料配布
2	1. 災害医療の特徴 2. 災害と情報 3. 災害対応にかかわる 職種・組織間連携 4. 災害と法律 5. 国内の救援活動の 現状と課題	1) 災害医療と救急医療の違い 2) 災害医療における体系的アプローチ 3) 災害サイクルと医療体制 1) 災害情報の種類 2) 災害救護活動のための情報収集 1) 非医療従事者との連携 2) 国・地方公共団体・赤十字等との連携 3) 防災ボランティアとの連携 1) 災害救助法・災害対策基本法 2) 災害時の法的な課題 1) 阪神淡路大震災 2) 東日本大震災 3) その他の災害	
3 (12	6. 赤十字救急法	災害時に必要な救護技術① 1) 基礎講習 一次救命処置(心肺蘇生法/AED) 2) 救急員養成講習 きずの手当て 骨折の手当て 搬送 救護	赤十字救急法の指導 要綱に準じて実施
13 14 15	7. 災害救護実習	1) 災害時に必要な救護技術② 基礎行動 担架、無線機の取り扱い テント設営・自家発電機の取り扱い 2) 災害時の被災者の心理 傷病者体験から学ぶ	トレーニングセンター セカンドクラスとの 合同訓練 課題レポート トレーニングセンターの学び

発展科目：災害看護論、災害救護活動など

テキスト：災害医療については適宜資料配布

赤十字救急法教本(基礎講習教本・救急法講習教本)

成績評価：赤十字救急法基礎講習・救急員講習検定

トレーニングセンター参加状況

課題レポート

科目名	災害医療論
授業科目の区分	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度
履修対象	1年次前期・後期
単位	1単位 30時間
担当講師	専任教師・救急法指導員・他
授業概要	災害および、災害医療に関する基礎的知識を理解する。 災害が人々の健康と生活に及ぼす影響を理解する。 防災意識を高める。 災害医療活動に参加できる基礎的能力を習得する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 ～ 3	1. 災害看護学を学ぶ意義	1) 災害被害の国際化 2) 近年の国内外の災害 3) 災害看護の役割 4) 人道支援の原則	講義 パワーポイント 資料配布
	2. 災害看護の歩み	1) 災害看護の始まり 2) 看護の役割の拡大	
	3. 災害医療の基礎知識	1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康障害 災害後のストレス・災害関連死	
	4. 災害医療の特徴	1) 災害医療と救急医療の違い 2) 災害医療における体系的アプローチ 3) 災害サイクルと医療体制	
	5. 災害と情報	1) 災害情報の種類 2) 災害救護活動のための情報収集	
	6. 災害対応にかかわる 職種・組織間連携	1) 非医療従事者との連携 2) 国・地方公共団体・赤十字等との連携 3) 防災ボランティアとの連携	
	7. 災害と法律	1) 災害救助法・災害対策基本法 2) 災害時の法的な課題	
	8. 国内の救援活動の 現状と課題	1) 東日本大震災 2) その他の災害	
4 ～ 11	9. 災害救護実習	1) 災害時の被災者の心理 トラウマメイク 傷病者体験から学ぶ 2) 災害時に必要な救護技術 基礎行動 担架、無線機の取り扱い テント設営・自家発電機の取り扱い	トレーニングセンター セカンドクラスとの 合同訓練 課題レポート トレーニングセンターの学び
12 ～ 15	10. 赤十字救急法	災害時に必要な救護技術 1) 基礎講習 一次救命処置(心肺蘇生法/AED) 2) 救急員養成講習 きずの手当て 骨折の手当て 搬送 救護	赤十字救急法の指導要 綱に準じて実施 特別講義枠で実施予定

発展科目：災害看護論、災害救護活動など
 テキスト：災害医療については適宜資料配布
 ＊赤十字救急法実施時は教本あり
 成績評価：赤十字救急法検定を加味する
 トレーニングセンター参加状況
 課題レポート

科目 医療概論

授業科目の区分 専門基礎分野

履修対象 1年次 前期

単位 2単位 30時間

担当講師 非常勤講師 1名 専任教師 1名

授業概要 医学・医療とは何か、現代医療はどのように行われ、どのような問題を抱かえているかを理解し、深く考える。人間の健康を守る営みがどのように変遷してきたかについて、人々の健康観および家族の役割と職業として専門分化した職種の役割や協働を通し、医療の動向と医療看護提供システムについて学ぶ。患者からみた「医」の「論理」と「倫理」「管理」について考える。

30

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	第1章 生きることと死ぬこと	1. 生命を尊ぶ心 2. 健やかに生きる 3. おいてこそ人生 4. 穏やかに死ぬこと	講義 演習
3 4 5	第3章 保健・医療・介護 切れ目ないサポートの実現	1. 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 2. 社会保障制度 3. 公衆衛生と保健 4. わが国の医療システム 5. 救急医療・集中医療 6. がん治療 7. 周産期医療 8. 放射線医療 9. チーム医療 10. リハビリテーション 11. 介護	講義 演習
6	看護史について	1. 看護史の意義 2. 原始看護 3. 古代文明国における看護 4. 西洋医学の源流 5. カトリックによる宗教的看護 6. わが国における仏教看護 7. 近世日本の医療と看護 8. 近代看護の確立	講義
7 8 9 10	看護史に興味・関心を持ち、理解を深めよう	テーマを決め、グループワークを行う 発表、意見交換	演習
11	第2章 医学と医療	1. 温故知新 医学の歴史に学ぶ 2. 臨床疫学とEBM	講義
12	第4章 医療と社会	1. 医の倫理 ・生命倫理とは ・患者の権利 ・研究倫理	講義
13	第4章 医療と社会	1. 医療安全 ・医療事故と医療過誤 ・医療安全対策のはじまり ・医療過誤の原因と対策 ・医療事故調査制度 2. 医薬品 ・医薬品の分類 ・医薬分業 ・後発医薬品 ・ポリファーマシー ・かぜに対する抗菌薬使用の問題 ・医薬品の有害事象 ・薬害	講義

14	第4章 医療と社会	1. 最先端医療 ・臓器移植医療 ・生殖補助医療 ・再生医療 ・ゲノム医療 2. 医療情報 ・医療情報と個人情報保護 ・医療ビッグデータ ・人工知能(AI)による医療支援	講義
15	第5章 医療経済学と医療政策	1. 経済学を用いて医療を読み解く ・医療サービスの特殊性 ・公的医療保険はなぜ必要か ・医療の質評価と情報公開 ・医療サービスの規制 ・医療職の不足 2. 転換を迫られる医療政策 ・国民医療費 ・これまでの医療費抑制策 ・急性期医療の集約化 ・医療サービスの費用効果分析 ・まとめ 医療者が持つべきコスト意識	講義

発展科目： 看護学全般
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[1] 総合医療論 医学書院
系統看護学講座 別巻 看護史 医学書院
成績評価： レポート、参加度等
終講時試験

2021. 3改訂

科目名： 公衆衛生学

授業科目の区分： 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度

履修対象： 3年次 前期

単 位： 1単位 15時間

担当講師： 非常勤講師(9) 姫路市保健師(2) 姫路市保健所(4)

授業概要： 1. 健康の概念を理解した上で、種々の公衆衛生分野の現状と課題を把握する
2. 医療に関連する社会保障制度(医療保障・介護保険制度など)を理解し、臨床現場でも活用できるようにする
3. 公衆衛生分野における保健所の役割について、理解する

授業計画

回 (時間)	項目	内容	方法
1 (1～2)	公衆衛生の理念	・ 公衆衛生を学ぶにあたって ・ 公衆衛生の活動対象 ・ 公衆衛生のしくみ	講義
2 (3～4)	健康と環境	・ 健康管理と環境要因 ・ 集団の健康をとらえるための手法	
3 (5～6)	公衆衛生の技術と実践(Ⅰ)	・ 地域保健 ・ 母子保健 ・ 成人・老人保健 ・ 精神保健・歯科保健 ・ 難病と感染症対策	
4 (7～9)	公衆衛生の技術と実践(Ⅱ)	・ 学校と健康 ・ 職場と健康 ・ 災害保健と健康危機管理	
5 (10～13)	保健所の公衆衛生活動	・ 保健所の役割と業務内容 食品衛生、健康増進・疾病予防など 母子保健活動、精神障害者支援など	保健所訪問
6 (14～15)	保健師の活動	・ 保健師の役割と業務内容	保健師による講義

発展科目：看護学全般

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院
厚生労働統計協会：厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2019/2020(1年次購入)

成績評価：課題；ゼミナールの解答・レポート他
終講時試験
授業態度・参加度

科目名 社会保障論

授業科目の区分 専門基礎科目 健康支援と社会保障制度

履修対象 3年 前期

単位 2単位 30時間

担当講師 非常勤講師 1名

授業概要 看護職は、人間の命に直接かかわる仕事をします。社会の制度、とりわけ日本国憲法に規定する社会保障制度について理解を深めることは、主体性を持って責任のある仕事をするのに必要不可欠です。さまざまな医療に関する制度を根底で支えているのは法律です。その理解なくして国家試験受験資格は得られません。

法律は人間と同様に生き物です。概念的な理解にとどまらず、より科学的な視点から、日進月歩の医療の実態と乖離しないように、また社会制度の変遷に注視しつつ、他の専門基礎科目や専門科目との有機的な理解を深めることが肝要です。日常生活の中で起こる社会現象をしっかりと捉え、単に知識や技術の習得だけでなく、現象を柔軟に捉える心が醸成されるよう講義します。

社会保障制度を理解するために、法と社会の関係、法の内容、看護職の職務遂行に必要な法令、そして医療関連法規、医療過誤問題について講義します。保健師助産師看護師法の徹底理解、社会資源の活用に関する法規の理解などは、国家試験対策に直結するものです。また、看護事故をいかにすれば防げるかを、看護行為の基盤となる看護倫理観の醸成に重点を置いて講義します。さらに、当該分野の理解度確認として、国家試験問題の演習をします。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2		1. 法と社会の関係や法の内容を看護に関わる社会問題を通して説明します。また、生命倫理にかかわる法的な医療問題を考察します。	講義
3 4		2. 医療の現場と、行政機関がどのように関係しているかを、保健・医療・福祉の実態を通して考察します。	講義
5 6 7		3. 医療関連法規の沿革及び分類を理解することで、今後実施される法改正に柔軟に対応できる社会資源活用能力の獲得を目指します。	講義
8 9 10		4. 基本法である保健師助産師看護師法については、度々の改正経過や厚労省の通達を踏まえて逐条解釈、法社会学的解釈をします。	講義
11 12 13		5. 関連法規について 保健・医療・福祉が様々に交錯する分野を縦割りに理解するだけでなく、横の繋がりを実務的に説明します。	講義
14 15		6. 医療過誤 様々な医療事故・医療過誤事例を検討し、看護職に問われる可能性のある法的責任としての民事責任、刑事責任、行政責任、及び倫理観の問題としての道義的責任について考えます。	講義

※具体的な授業計画は、講義計画表に記載します。

発展科目： NIEを取り入れ、医療に関連する問題を、広く社会現象の中に求めてゆきます。強いて言えば、看護法社会学を実感していただきます。

テキスト： 前島良弘 著「新版 看護を学ぶための法と社会保障制度」(ふくろう出版) 2021年3月出

成績評価： 終講時試験（空所補充、正誤訂正、多肢択一問題）、単元別演習、参加度を総合評価します。

コメント： 毎回重要なプリントを配布します。しっかりファイルしてください。また、遅刻、欠席に関してはレポートの提出を求めます。

科目 看護学概論

授業科目の区分 専門分野Ⅰ

履修対象 1年 前期

単位 1単位 15時間

担当講師 専任教師

授業概要 看護学を学ぶ学生が最初に学習する専門科目であるが、永遠に「看護とはなにか」を追求し続ける学問でもある。看護学の全体の基本内容を含み、看護の本質について看護観、人間観、世界観を形成する基礎とする。

職業としての看護はサービス業である。安全で安楽、その人の自立を支援する看護サービスの本質は本校の教育理念である「人道」とも関連することを学ぶ。

33

回	項目	内容	方法
1 (2時間)	看護学への導入	1. 本科目のカリキュラム全体の位置づけ 2. 看護学概論は何を学ぶのか 学び方 3. 看護のイメージ 4. イメージマップの書き方 5. 看護の語源・原点	「教育課程」使用 講義 演習 イメージマップ
2 (2時間)	看護の対象	1. 人間についてイメージマップ 2. 「人」と「ヒト」 3. たくましく、うまく、よく、生きる人間 マズローのニード論 4. 生活者としての人間 5. 生涯発達しつづける存在としての人間 6. 看護の対象としての家族・集団・地域	講義 演習 イメージマップ
3 (2時間)	健康と生活	1. 健康のとらえ方 2. 障がいのとらえ方 3. 社会の変化と健康観の変化 4. 人々の生活と健康に関する統計	講義 演習
4 (2時間)	看護の本質	1. 臨地実習の体験から考える 2. 看護の定義 3. 役割と機能 4. 看護理論 5. 変化している看護	講義 演習
5 (2時間)	職業としての看護	1. 職業としての看護 2. 保健師助産師看護師法 3. 免許を持つということ (専門職に就くということ) 4. 看護における倫理 5. サービスとしての看護	講義 演習 次回グループ・ワークの 説明
6 (2時間)	保健医療システムと看護	保健医療システムと看護 グループワーク テーマ: 看護職者のキャリア開発 地域包括ケアシステム 看護職の役割拡大 看護サービス 他国の看護 ある時代の看護 等	演習
7 (2時間)	保健医療システムと看護	グループワーク発表 (ジグソー)	演習
8 (1時間)	看護のもののさし	看護であること、看護でないこと 看護実践を考える時の「看護のもののさし」に ついて理解する 看護理論	講義 演習

発展科目: 基礎看護学 専門分野Ⅱ 統合分野

テキスト等: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論 他

看護者の倫理綱領 日本看護協会

看護覚え書き フロレンス・ナイティンゲール 日本看護協会出版会

看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会

成績評価: 試験、レポート、グループワーク、参加度

2021.3改訂

科目 看護の実践哲学
 授業科目の区分 専門分野 I 基礎看護学
 履修対象 3年 前期 (30時間)
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師
 授業概要

34

実習での体験を踏まえて、看護の本質について思考し、自己の人間観、看護観、世界観を確認する。
 人道と人権・看護・ケアリングの本質は共通することを身をもって実感し、赤十字看護師の使命と役割を理解する。

授業計画(前期)

回	項目	内容	方法
1 (2時間)	ガイダンス 「知っている」とは 1) 認識の構造 (具体・抽象・構造) 2) 「看護倫理」について	シラバスの説明 「看護の実践哲学」学び方 「知っている」とはどういうことかを認識論を用いて学習する 看護倫理について考える *実習場面で「もやもやしたこと」レポート	講義 演習
2 (2時間)	「看護倫理」について	臨地実習体験事例を用いて、「看護倫理」について学習する 「4ステップモデル」を理解し、グループワークで体験する。	講義 演習
3 (2時間)	「看護倫理」について	看護倫理グループワーク発表 ケーススタディについて導入	講義 演習
4 (2時間)	ケーススタディについて	臨地実習の体験を、ケーススタディにまとめることによって、リフレクションする方法を学ぶ	講義 演習
5 (2時間)	体験リフレクション (その1)	臨地実習の体験を、グループでリフレクションし 体験を共有しながら、ケーススタディをまとめる	講義・演習
6 (2時間)	体験リフレクション (その2)		講義・演習
7 (2時間)	体験から学ぶ(その1)	臨地実習体験を各グループ2名発表し、実習での体験を踏まえて「看護の本質」について考える *事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 4月
8 (2時間)	体験から学ぶ(その2)	臨地実習体験をテーマに沿って各グループ2名発表し、各テーマ、「看護の本質」について考える 例:自立に向けてのかかわり 退院にむけての看護 発達段階にあわせたかかわり 周術期の患者の看護 *事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 5月
9 (2時間)	体験から学ぶ(その3)		事例検討 7月
10 (2時間)	ジェンダーと看護	「ジェンダー」について、グループで学ぶ	講義・演習
11 (2時間)	現在の医療の動向について	「特定行為に係る看護師の研修制度」について等	講義・演習
12～15 (8時間)	体験リフレクション (その3)	ケーススタディを発表する *ケーススタディの発表を聞き、「ケーススタディでの学び」についてレポート提出	演習(発表) 8月30日

発展科目: 実習での具体的体験を、ケーススタディにまとめる過程を体験し、看護の本質について思考する。
 仲間のケーススタディを聞き、話し合うことによって自己の看護観を明確にする。
 統合実習、統合技術演習につなげ、看護観や看護の主要概念について話し合う機会を持つ。
 卒業後の看護実践につなげて欲しい。

国家試験後に「私と看護」に応募する。(12月頃に説明します)

テキスト等: 学生の体験
 わかりやすいケーススタディの進め方 照林社 (ケーススタディ説明時持参)
 関西看護学生看護研究大会冊子 (ケーススタディ説明時持参)
 看護者の倫理綱領

成績評価: レポート、参加度(出席状況)
 とくに、ケーススタディ、「事例検討会での学び」「ケーススタディでの学び」のレポートを評価対象とします。

科目名 コミュニケーション
 授業科目の区分 専門分野Ⅰ 基礎看護学
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 専任教師
 授業概要

35

人間にとってコミュニケーションは、水や空気、そして食物と同様に、他者とともに生きていくために不可欠な要素である。看護において、コミュニケーションは、あらゆる看護行為の基本であり、重要な看護技術の一つでもある。看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を習得する。対人関係を成立するためには、自己理解、他者理解が必要であり、リフレクションを通して深める。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護学でコミュニケーションを学ぶ意義	①コミュニケーションの概念 ②コミュニケーションの基本原則、構造とプロセス	講義
2	コミュニケーションの種類	①言語的コミュニケーション ②非言語的コミュニケーション	講義 演習
3 4	自己理解・他者理解	①ジョハリの窓 ②リフレーミング ③他者理解 ④アサーティブ	講義 演習
5	効果的なコミュニケーション技術	①コミュニケーションに必要な能力 聴く、話す、理解する、感覚・感性を磨く ②コミュニケーションに必要な態度 挨拶、身だしなみ、プライバシー、対象者の尊重 ③コミュニケーションを妨げるもの	講義
6 7	コミュニケーションに関する本の紹介	個人ワークの発表、意見交換	演習
8	まとめ	①授業全体のまとめ ②プロセスレコードの概要と目的、記載方法	講義

発展科目:すべての看護実践の基盤となる

テキスト: メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③ 基礎看護技術

成績評価: 終講時試験

2021. 2 改訂

科目名 フィジカルアセスメント
 授業科目の区分 専門分野Ⅰ 基礎看護学

36-1

履修対象 1年前期
 単位 1単位 30 時間

担当講師 専任教師 2名

授業概要 観察・アセスメントの技術は、情報収集を行い対象の全体像を把握し看護を展開する上で、出発点となる重要な技術である。アセスメントは身体面だけではなく、対象の身体的・社会的・精神的な面をアセスメントし全人的に捉える必要がある。既習の解剖学・生理学の内容と結びつけながら、アセスメントの視点を捉えていく。そして、学んだアセスメント技術を活用できるよう、健康な生活者を対象に演習を行いながら講義を展開する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護における関心とは 観察とは ヘルスアセスメントとは	・看護における観察とは ・観察の方法 ・フィジカルアセスメントとは ・フィジカルアセスメントの進め方 ・フィジカルアセスメントの4つの基本技術 ・フィジカルアセスメントの意義、目的	講義
2	部分のアセスメント	・全身の概観(外見や行動) ・精神機能 ・栄養状態 ・外皮系 ・頭頸部	講義
3	部分のアセスメント	・眼、耳、鼻、口	講義
4	部分のアセスメント	・胸部 呼吸系	講義・演習
5	部分のアセスメント	・腹部 消化系	講義・演習
6	バイタルサインとは 体温	・バイタルサインとは ・体温とは ・体温に影響を及ぼす因子 ・体温の平衡 ・体温調節のメカニズム ・体温の異常 ・発熱と生理学的メカニズム	講義
7	体温を調節する技術 発熱	・発熱の効果と適応 ・冷発熱、温発熱の方法 ・冷発熱(氷枕、氷のう、氷嚢) ・温発熱(温枕、温シップ)	講義 演習
8	生命の徴候を観察する技術 脈拍	・脈拍とは ・脈拍調節のメカニズムと影響因子 ・脈拍部位と測定時のポイント	講義
9	生命の徴候を観察する技術 血圧	・血圧とは ・血圧調節のメカニズムと影響因子 ・血圧測定時のポイント	講義
10	バイタルサイン測定の実際	・バイタルサイン測定	演習
11	生命の徴候を観察する技術 呼吸	・呼吸とは ・呼吸調節のメカニズムと影響因子 ・呼吸測定部位と測定時のポイント	講義

12	呼吸を楽にする技術	・呼吸のニーズに関するアセスメント ・障害の種類 ・呼吸を楽にする方法の選択 効果的な呼吸方法、痰を喀出させる方法 吸入・酸素療法	講義
13	呼吸を楽にする技術の実際	・呼吸を楽にする方法の選択 効果的な呼吸方法、痰を喀出させる方法	演習
14	事例で学ぼうフィジカルアセスメント	・事例を設定し、アセスメントする ・発表	演習 GW
15	看護を展開する技術	・看護記録の機能と法的意義 ・看護記録の様式 (POS、フォーカスチャータリング、経時的叙述的看護記録) ・記録に関する留意事項 ・情報の伝達・共有の目的と留意事項 ・報告	講義

発展科目： 臨地実習の看護実践の基礎となる
 テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 学研 看護技術プラクティス
 学研 フィジカルアセスメント完全ガイド(第3版) 藤崎 郁
 資料
 成績評価： 終講時試験

2021. 3 改訂

科目名

生活を整えるー1
(環境・安楽な体位・身体の清潔)

37

授業科目の区分

専門分野Ⅰ 基礎看護学

履修対象

1年次 前期

単位

1単位(30時間)

担当講師

専任教師

授業概要

1. 環境が人間に与える影響を理解したうえで、環境を調整する技術を習得する
2. 人間の活動・運動の意義を理解し、患者が健康生活を送る為に必要な援助方法を習得する
3. 対象の清潔の意義と衣生活を理解し、基本的な清潔援助技術を習得する

授業計画

回	項目	内容	方法
1	環境とは 環境調整技術	内部環境と外部環境 プライバシー保護と環境整備 換気と臭気の排除 室温と湿度の保持 騒音の原因と排除 採光と照明 環境調整の意義	講義
2	手洗いの意義と方法 手洗い方法の習得 リネンについて学ぶ	病室の環境整備 病床とベッド・ベッドメイキング 手洗いの実施(手洗いチェッカーの使用方法) リネン類の名称・たたみ方・収納方法	講義 演習
3	体位について	1) 体位の種類、特徴 2) 活動・運動の生理学的メカニズム 体位と呼吸機能・循環血液量との関係 同一体位の有害性 廃用症候群 3) 安楽な体位	講義 GW
4	安楽な体位の工夫	1) アセスメント 2) 安楽な体位の実践 【演習】体位変換	演習
5 6	ベッドメイキングの 方法を学ぶⅠ ベッドメイキングの 方法を学ぶⅡ	ベッドメイキングの実施 臥床患者のシーツ交換(デモンストレーション)	演習
7 8	シーツ交換	シーツ交換の実践(ボディメカニクス、体位変換含む) 【演習】臥床患者のシーツ交換 ※自己学習:廃用症候群	演習 (技術チェック)
9	身体の清潔の意義と アセスメント	1) 身体の清潔の意義(生理的・心理的・社会的意義) 2) 洗剤の作用 3) 身体の清潔ニーズのアセスメント 4) 清潔援助方法の選択 清潔援助の種類 目的と適応 清潔援助が身体に及ぼす影響 清潔援助方法の選択 ①入浴、シャワー浴 ②全身清拭、部分清拭 ③洗髪	講義 GW
10 11	部分浴、寝衣交換	部分浴(足浴) 【演習】足浴 寝衣交換の実践 【演習】臥床患者の寝衣交換 全身清拭(デモンストレーション)	演習
12 13	全身清拭	全身清拭の実践 【演習】臥床患者の全身清拭	演習
14 15	洗髪	洗髪の実践 【演習】臥床患者の洗髪	演習

発展科目: 看護学の土台となり、看護学の実習や、卒業後の臨床で、看護実践の基礎となる。

テキスト: 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護技術 プラクティス 学研成績評価: 終講時学科試(30%)、実技試験(70%):「臥床患者の全身清拭」
出席状況 受講態度 技術練習状況を加味します

2021.2改訂

科目名 生活を整える－2（食事・排泄）
 授業科目の区分 専門科目Ⅰ 基礎看護学
 履修対象 1年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 2名
 授業概要

38

健康と栄養の関連について理解し、栄養状態を整えるための基本的な援助技術を習得できる。排泄の意義を理解し、基本的な援助技術を習得できる。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	健康な食生活 栄養と食事の基礎知識	1) 栄養・食事の意義 2) 健康と食生活 3) 食欲のメカニズムと影響する因子 4) 栄養素と栄養所要量 5) 消化と吸収	講義
2	栄養と食事のアセスメント	1) 栄養所要量と摂取量 2) 栄養状態のアセスメント 3) 食事行動のアセスメント	講義
3	食事のアセスメントと援助方法	1) 食事摂取行動とアセスメント 2) 食事援助の方法	講義
4	食事援助の実際	1) 食事援助の方法とケア	演習
5	口腔の清潔援助	1) 口腔ケア	講義・演習
6	排泄援助を受ける対象の理解 排泄の基本援助の基礎知識	1) 排泄援助を受ける対象の理解 2) 排泄行動の自立と阻害する因子 3) 排泄に影響をおよぼす因子 4) 自然排泄を阻害する因子 5) 自然な排泄を促す援助	講義
7	排泄障害(排便)とその援助 排泄障害(排尿)とその援助	1) 排便障害の種類 ①便秘 ②下痢 2) 排便障害に対する援助 1) 排尿障害の種類 ①頻尿 ②尿閉 ③尿失禁	講義
8	排尿・排便の援助方法の選択	1) 床上での排便・排尿の援助 ①便器・尿器の当て方	講義
9	治療的排泄援助技術(浣腸)についての理解 治療的排泄援助技術(導尿)についての理解	1) 浣腸の適応と種類 2) 目的・作用 3) 浣腸の管理 1) 導尿の適応と種類 2) 一時的導尿の方法 3) 持続的導尿の管理	講義
10.11	浣腸の実際	1) 浣腸	演習
12.13	排泄ケア 移動の援助	1) 陰部洗浄 1) 活動・運動のアセスメント 2) 移動・移送の実際 車椅子への移乗・移送 ストレッチャー(ベッド)への移乗・移送	講義 演習
14.15	排泄ケアの実際 導尿の実際	1) 導尿	演習

発展科目: 専門分野Ⅱおよび臨地実習等、栄養摂取、消化吸収・排泄障害のある対象の看護に関する幅広い領域に発展する

テキスト: 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 学研 看護技術プラクティス
 資料

成績評価: 講義、演習、参加度、および筆記試験で総合評価とする

科目名 臨床看護総論

授業科目の区分 専門分野 I 基礎看護学

履修対象 1年次 後期

単位 2単位 60 時間

担当講師 専任教師 2名 非常勤講師 2名

授業概要 学んだ知識・技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。
 基本的な問題解決過程の習得を目指す。
 1年次の統合技術演習として位置づける。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 ～ 8	1. 臨床看護とは 2. 健康状態の経過に基づく看護 3. 主要な症状を示す対象者への看護 4. 治療・処置を受ける対象への看護	臨床とは 臨床看護とは 1) 急性期における看護 2) 慢性期における看護 3) リハビリテーション期における看護 4) 終末期における看護 1) 痛みを経験するということ 2) 呼吸が障害されるということ 3) 循環が障害されるということ 1) 輸液療法と看護 2) 安静療法と看護	講義 及び 事例検討 (演習)
9	主要症状を示す対象者への看護	排尿障害の患者の看護 (膀胱留置カテーテル挿入患者の看護)	講義
10 ～ 16	治療・処置を受けている 患者の看護	手術療法を必要とする患者の看護 術前看護: 術前心理と具体的援助 術後看護 ① 手術後の回復を促進するための看護 ② 術後合併症の発生機序と予防・対応 ③ 術後 回復期に向けた援助	講義 演習
17 ～ 18	「対象を理解しよう」	事例(データベース)の情報から患者を理解・ イメージ化し、看護を考える 事例① 胃癌 胃切除術後 事例② 変形性股関節症術後 事例③ 前立腺癌 術後 事例④ 脳梗塞 回復期 事例⑤ 肺癌 化学療法・放射線療法中 事例⑥ 多発性骨髄腫 化学療法中 事例⑦ 慢性心不全の急性増悪 (事例は変更する可能性あり)	演習

回	項目	内容	方法
19	情報を整理しよう	各自で考えてきた情報の整理・思考の過程を持ち	個人ワーク
20	援助計画を立案してみよう	寄り、GWで深める。援助計画まで、立案する。	GW
21	考えた援助を実施してみよう	事例①～⑧の患者に対し、考えた援助を実施する	演習
22		実施した結果どうであったか、考える。	
23	対象理解演習のまとめ		GW・発表
24	看護過程とは	問題解決過程とは	講義
25		看護過程のステップ	演習
26		情報収集、情報の整理	
27		分析、アセスメント	
28		全体像の描写:思考の過程、構造図	
29		看護問題抽出、看護目標、計画立案	
30		実施、評価	

発展科目： 各看護学の講義及び実習全てにつながっている

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 基礎看護学4 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 配布資料

成績評価： 講義終了後にテスト
 個人で行う演習課題と取り組みの態度、グループワーク参加度、
 授業態度、出席状態など

コメント： 既習の知識を関連させ、看護を展開していきましょう

2021. 3改訂

科目名 診療の補助技術
 授業科目の区分 専門分野Ⅰ 基礎看護学
 履修対象 2年次後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 2名
 授業概要

看護師は、保健師助産師看護師法第5条に示されている「診療の補助業務」として、その行為に対し法的根拠を与えられている。近代、医療が高度化し、医療業務はより複雑化、繁雑化している。そのような中、医療者には医療事故防止対策の強化が強く求められている。医療行為、特に治療・処置には危険が伴うこと、また技術がより進歩することでリスクが高くなることは事実である。看護師が、診療行為に伴う法的立場をふまえて医師の診療の補助を行っていることを認識し、患者が安全・安楽に診療が受けられるように援助する技術の基本と倫理的な態度について学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 診療の補助とは 2. 診療の過程	1) 医療を取り巻く環境と医療者に求められているニーズ 2) 診察における看護の役割 診察に過程と診察時の援助	講義
2		診療における医師・看護師に役割を考える	ロールプレイ
3	3. 薬物療法(与薬)について	1) 与薬の意義・目的・法的根拠・ 2) 与薬の基礎知識 3) 薬物療法における看護師の役割 4) 与薬経路とその特徴	講義
4			
5	4. 各種与薬法の手順と看護	①経口与薬法 ②口腔内与薬法 ③直腸内与薬法 ④点眼法 ⑤点鼻法 ⑥点耳法 ⑦吸入法 ⑧塗布法 ⑨貼付法	GW発表 ロールプレイ
6	5. 薬物療法における看護師の質の保証と安全管理	1) 感染予防 2) リスクマネジメント	講義
7	5. 注射法とは	1) 注射法とは 2) 注射法で使用する物品 3) 注射法の種類と特徴 4) 注射法の合併症	講義
8	6. 血管外注射	1) 血管外注射 (皮下注射、皮内注射、筋肉内注射)	講義
9	7. 静脈内注射	1) 静脈内注射 2) 輸液療法 輸液の管理	講義
10	8. 採血	1) 輸液療法 輸液ポンプ、シリンジポンプ 2) 採血	講義
11	9. 注射の実際	1) 薬剤の準備	演習
12.13	10. 筋肉内注射の実際	1) デモンストレーション 2) 筋肉内注射 (注射の準備、注射部位の選定、実施、後片付け)	演習
14.15	11. 採血(静脈血)	1) デモンストレーション 2) 採血 (採血の準備、採血部位の選定、実施、後片付け)	演習

発展科目： 成人看護学、在宅看護論、老年看護学の講義、および臨地実習等、栄養摂取、消化吸収・排泄障害のある対象の看護に関する幅広い領域に発展する
 テキスト： メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学 ③ 基礎看護技術
 学研 看護技術プラクティス、資料
 成績評価： 筆記試験

科目名	EBNの実践
授業科目の区分	専門分野 I 基礎看護学
履修対象	3年次前期
単位	1単位30時間
担当講師	非常勤講師
授業概要	1. Evidence-Based Nursing (EBN) の考え方が出現してきた背景とその意義について理解する。 2. Evidenceの使い方について理解する。 Evidenceを使う際に必要な文献critiqueの方法について理解する。 3. Evidenceの作り方について理解する。 Evidenceを作るためのプロセス(研究計画の立案、データ収集、分析評価、論文作成)について理解する。 4. 研究における倫理について理解し、研究者の行うべきことがらを理解する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1・2	EBN概説 Evidenceの作り方	- EBNの考え方が出現してきた背景とその意義 - Evidenceの水準 - EBNの手順 - Evidenceを作るための手法(量的・質的・ミックス法) - 研究と倫理	
3・4	Evidenceの使い方 文献critique	- 文献検索(医中誌、MEDLINE)、文献収集方法 - 文献critiqueとは - 文献critiqueの方法 - 文献critiqueの実際	PCを用いた演習 既存の文献を用いて
5	研究計画書について	- 研究疑問から研究課題(テーマの絞り込み) - 研究方法の選択 - 研究計画書の例	
6～11	研究計画書の作成	5人1組全8グループに分かれて実施	グループワーク
12・13	研究計画書の発表とcritique	全8グループの発表と他グループからのcritique	
14・15	まとめ	テキストをもとに	

発展科目:

成績評価: グループワークへの参加度ならびに自己評価をもとに評価する。

2021.3改訂

科目名 成人看護学の概論
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 1年次 前期
 単位 30時間1単位
 担当講師 専任教師
 授業概要

42

1. 成人期にある人の特徴並びに成人各期の特性について理解する
2. 成人期にある人の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響について理解する
3. 成人各期の健康問題を知り、健康管理や疾病予防、健康の保持増進における看護について理解する
4. 成人保健の動向と対策、保健活動について理解する
5. 成人看護学に活用される理論について理解する

授業計画

回	項目	内容	方法
1	成人であるということ	・成人の定義 ・成人であることの自覚 ・成人の特徴 ・成人の役割	講義 グループワーク
2	成長発達の特徴	・成人期の発達課題と理論 ・青年期の特徴 身体的、心理・社会的 ・青年期の健康問題	
3	成長発達の特徴	・壮年期の特徴 身体的、心理・社会的 ・壮年期の健康問題 ・向老期の特徴 身体的、心理・社会的 ・向老期の健康問題	
4	生活習慣に関連する健康障害	・生活習慣と健康障害との関連 ・生活習慣病の予防と対応 ・生活習慣病の予防とセルフケア	
5	生活習慣に関連する健康障害 生活ストレスに関連する健康障害	・喫煙防止 ・生活ストレスと健康障害 ・成人の生活ストレス ・ストレス関連疾患の予防と対応 ・薬物乱用防止	講話(兵庫県警)
6	職業に関する健康障害	・職業性疾患及び業務上疾病 ・職業性疾患の予防と対応	
7・8	危機	・危機とは、危機の特徴 ・危機介入 ・事例で考えるフランクのモデルを活用した危機介入	闘病記
9・10	セクシュアリティに関連する健康障害	・セクシュアリティと健康に関連する概念 ・性的健康の指標及び実態 ・性に関連する健康障害の予防および対応	映画鑑賞
11	適応	・盲ろう者について ・聴覚障害について ・聴覚障害者とのコミュニケーション	手話
12・13	成人の死	・発達段階における死の理解 ・告知の是非 ・死の受容過程 ・死の不安とその要素	
14	成人の死	・死に向かう人の家族 ・ホスピスケア	ビデオ 闘病記
15	遷延性意識障害	・遷延性意識障害とは ・遷延性意識障害の人の家族	闘病記

発展科目:

テキスト: ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版

成績評価: 終講時試験 レポート

2018. 3改訂

科目名 健康危機状況
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位30時間
 担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 1名
 授業概要 成人が極めて深刻なセルフケア困難に陥っている時の看護を学ぶ

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	1. 健康危機状況にある成人の理解	1)成人にとっての健康とは 2)成人にとっての危機とは ・発達の危機 ・状況的危機 ・危機モデルを活用した危機介入	講義 グループワーク
3	2.健康危機状況にある成人に生じるセルフケア不足	1) 五つのセルフケア不足 2) 苦痛の緩和 3) 身体機能悪化の予防と早期発見 4) 生活行動変更への支援 5) 心理的・精神的混乱への支援	
4 5 6	代表的な健康危機状況と看護の特徴	1) 術前アセスメント 2) 手術室における看護の展開 入室前、入室時の看護 麻酔導入時の看護 脊椎麻酔時の看護 3) 心不全の事例でのアセスメント 4) 輸血療法	事例演習
7			
8	家族および重要他者の不安や負担への対応	1) 成人の発達段階に応じた家族または重要他者との関係性 2) 家族についてのアセスメント方法 3) 患者の健康状況とキーパーソンおよびその他の家族の相互作用	事例演習
9 10 11 12	4. 健康危機状況にある患者の看護	1) 病棟入院患者 全身麻酔＋硬膜外麻酔 入院までの経過 病名の告知 心理・精神的混乱 患者の苦痛・生活行動変更への対応困難 家族や重要他者の不安や負担 手術 術後の看護	事例演習
13 14 15		3) ICU・CCU入室患者の看護 食道癌の手術前後の看護 人工呼吸器装着時の看護 緊急入院時の看護 急性心筋梗塞	

発展科目： 全科目 臨地実習における看護の基本である
 テキスト： ナーシング・グラフィカ 成人看護学②
 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院
 成績評価： 講義終了後にテスト 参加度

科目名 セルフケアの再獲得
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位30時間
 担当講師 非常勤講師 4名
 授業概要 外傷や疾病によってセルフケアが低下した状態に陥ったとき、セルフケアを再獲得し、再び「その人らしく生きていく」ための看護支援について理解する

授業計画

回	項目		方法
1	1. セルフケアの低下状態にある成人の理解	1) 成人にとってのセルフケア再獲得 2) セルフケアの低下と再獲得 3) セルフケアの再獲得と自立	講義
2	2. セルフケアの再獲得を必要とする成人への看護	1) セルフケア低下状態のアセスメントと評価	講義
3		2) セルフケア再獲得を支援する方法 3) セルフケア再獲得を支援する人的システム 4) セルフケア再獲得を支援する法的システム 5) セルフケアを再獲得するプロセスにある人権擁護	講義
4			
5	3. セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際	1) 生命維持レベルのセルフケアの再獲得 脳出血急性期にある人の看護 (1) 脳出血の病態と急性期の治療 (2) 脳出血急性期における看護 (3) 脳出血生命維持レベルのセルフケア再獲得支援	講義 演習
6		2) 生活基本行動レベルのセルフケアの再獲得 脳出血回復期にある人の看護 (1) 脳出血の回復期の病態・治療・看護 (2) 脳出血回復期の生活基本行動レベルのセルフケア再獲得支援	
		3) 家庭におけるセルフケアの再獲得 脳出血の家庭復帰期にある人の看護 (1) 脳出血の家庭復帰における治療と看護 (2) 退院後の生活における課題 (3) 脳出血患者の家庭復帰にむけたセルフケア再獲得支援	
7		4) 家庭生活の役割遂行に関わるセルフケアの再獲得 関節リウマチをもつ人の看護 役割遂行に関わるセルフケア再獲得支援	
10		5) 職業生活とセクシュアリティに関わるセルフケアの再獲得 脊髄を損傷した人の看護 職業生活とセクシュアリティに関わるセルフケア再獲得支援	
		6) 地域生活や余暇生活に関わるセルフケアの再獲得 中途視覚障害者のコミュニケーションに関わるセルフケア再獲得支援	
11		4. リハビリテーション	
		1) リハビリテーション概論	
		2) 運動器系の障害とリハビリテーション看護	
15		3) 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 (1) 脳血管障害 (2) 脊椎損傷 4) 呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション	

発展科目: すべての科目、実習の基礎となる
 テキスト: ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版
 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院
 成績評価: 終講時テスト 参加度

科目名 セルフマネジメント
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 2名
 授業概要 慢性的な病を持った人がシンプトン・マネジメント(自分の症状と生活のなかで折り合いをつけて付き合っていく方法)とサイン・マネジメント(客観的に測定、観察できるデータや徴候の意味をアセスメントし、対処する方法)を獲得していく過程の看護を学ぶ。

45

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. セルフマネジメントとは	1) セルフマネジメントとは 2) セルフマネジメントのための対象理解 3) 成人教育学 (1) 成人教育学(アンドラゴジー参照) (2) エンパワメントモデル (3) 自己効力理論	講義
2	2. セルフマネジメントを推進する看護方法 ～セルフマネジメントの過程	1) 対象理解 2) 援助方法 3) 評価の仕方	講義
3 5 6	3. セルフマネジメントを目指す看護の実際	1) 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント (1) 糖尿病に関する知識 ① 糖尿病とは ② 糖尿病の診断基準 ③ 糖尿病の検査、治療 ④ 自己血糖測定 ⑤ 糖尿病の症状 ⑥ 糖尿病に特有な合併症の種類と疫学 (2) 糖尿病をもつ患者のセルフマネジメント事例	講義
7		2) 腎不全とともに生きるセルフケアマネジメント	
8 9 12		3) 慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント (1) 呼吸不全とはどのような状態か ① 呼吸不全の定義と診断基準 ② 呼吸不全の発生機序と原因 ③ 長期酸素療法 (2) 慢性呼吸不全(COPD)をもつ人への一般的対応 ① 酸素機器に関するマネジメント ② 気道感染の予防 ③ 安楽な体位と呼吸方法 ④ 薬物療法に関するマネジメント ⑤ 息切れの少ない生活のためのマネジメント (3) 呼吸不全の患者のセルフマネジメント事例	講義
13 15	4. 慢性疾患患者に対する災害看護	1) 慢性疾患の特性と災害時の療養生活への影響 2) 慢性疾患患者と災害時の脆弱性 3) 慢性疾患を持つ患者と家族に対する災害看護	講義 GW

発展科目: 看護に必要な講義、実習の基礎となる
 テキスト: ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版
 系統看護学 専門Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学 専門Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸 医学書院
 成績評価: 終講時試験・参加度

2021.3改訂

科目名 ターミナルケア
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 3名
 授業概要

46

1. 人間が存在し生きるという過程を、患者や家族のQOLという視点から捉え、死と向き合っている患者や家族が成し遂げる過程を支援する看護を学ぶ。
2. 死後のケア、遺族への関わりについて理解する。
3. 苦しみに寄り添う医療者自身のケアについて理解する

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 緩和ケアの現状と展望	1) 緩和ケアの歴史と理念 2) 全人的苦痛について事例検討 「若年乳がん終末期の患者」	講義 演習
2	2. 緩和ケアにおけるチームアプローチ	1) チームアプローチの意義 2) 事例 「チームアプローチを考える」	
3	3. 緩和ケアにおけるコミュニケーション	1) コミュニケーションの基礎知識 意義 スキルとプログラム 2) 事例 「コミュニケーションを考える」	
4	4. 緩和ケアにおける倫理的課題	1) 意思決定支援 アドバンス・ケア・プランニング 2) 臨床で直面する倫理的課題	
5	5. 全人的ケアの実践 身体的ケア①	1) 症状マネジメントと日常生活を支えるケア 疼痛	
6	6. 全人的ケアの実践 身体的ケア②	1) 症状マネジメントと日常生活を支えるケア 呼吸困難	
7	7. 全人的ケアの実践 身体的ケア③	1) 症状マネジメントと日常生活を支えるケア 消化器症状	
8	8. 全人的ケアの実践 心理的ケア	1) 心の反応 ストレス 2) 主な精神症状と対応 不安・抑うつ せん妄 認知症	
9	9. 全人的ケアの実践 社会的ケア	1) 療養者の暮らしの支援 2) 在宅への移行支援	
10	10. 全人的ケアの実践 スピリチュアルケア	1) スピリチュアルペインについて 2) スピリチュアルペインのアセスメントとケア	
11	11. 緩和ケアの広がり	1) ライフサイクルによる広がり ・小児、AYA世代、高齢者	
12	12. 緩和ケアの広がり	1) さまざまな疾患のひろがり ・悪性腫瘍、心疾患、呼吸器疾患、神経難病 脳血管疾患、腎疾患	
13	13. 臨死期のケア	1) 臨死期の概念とケアの目標 2) 臨死期の全人的苦痛の緩和 3) 看取り期、死亡後のケア	
14	14. 家族のケア	1) 家族とは 家族ケアの方法 2) グリーフケアと遺族ケア	
15	15. 医療スタッフのケア	1) ストレスマネジメント 2) マインドフルネス ☆すべての回で事例を通して考える機会を作る	

発展科目： 成人看護学、老年看護学、在宅看護論
 テキスト： 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
 成績評価： 終講時試験・参加度

2021.1改訂

科目名 がん看護
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 非常勤講師 5名
 授業概要

47

がんとはがん患者の特徴、治療についての知識を深め、患者にとって化学療法を行う意義を考えながら、安全安楽に治療が受けられるように、患者・家族を支援する看護を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3	がん看護 1.がん医療の現在と看護 2.がんの病態と臨床経過 3.がん患者の看護 4.がんの治療 5.がん治療に対する看護 6.がん治療の場と看護	1)がんの病態 2)がん患者の臨床経過 1)苦痛に対するマネジメント 2)心理的サポート 3)予防と早期発見 4)症状マネジメント 1)手術療法の看護 2)放射線療法の看護 1)意思決定支援(アドバンスケアプランニング) 1)外来がん看護 2)がん患者の療養支援	講義
4 5	化学療法 1.がんと化学療法 2.化学療法看護を受ける患者への看護 3.抗がん剤の取り扱い 4.外来化学療法室の紹介 5.抗がん剤の特徴	1)化学療法の適応・目的・手術療法との関係 2)化学療法と手術療法との関係 3)化学療法と放射線療法との関係 4)化学療法の効果・副作用・有効性 5)抗がん剤の作用機序 6)最近の化学療法のキーワード 1)抗がん剤投与時に考慮すべき因子 2)抗がん剤治療のプロセス 3)抗がん剤の副作用の発現時期 4)患者・家族への教育的支援 5)治療後の看護 1)ケミカルハザード 1)外来化学療法室の流れ 2)外来化学療法室の利用状況 1)抗がん剤の副作用のマネジメント	講義
6 7	乳がん患者のセルフマネジメント事例	1)疾患、分類、検査、診断 2)治療 化学療法、内分泌療法、手術療法、放射線療法 3)看護ケア	講義 演習

発展科目：看護、実習の基礎となる

テキスト：系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院
 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院
 適宜 資料配布
 乳がん患者のセルフマネジメント事例

成績評価：終講時試験・参加度

2021.1改訂

科目名 老年看護学の概論
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 老年看護学
 履修対象 1年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師

授業概要

1. ライフサイクルの中で老年期をとらえ、高齢者の特徴(身体的・精神的・社会的)とその健康生活を理解する。
2. 加齢に伴う変化と老年期にある人々の生活適応を阻害する諸要因について、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。
3. 老年期の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響について理解する。
4. 老年期に対する保健医療福祉の動向と対策(活動)について理解する。
5. 自分自身の老年観を言語化(客観視)し、洞察する。
6. 老年看護の実践の核となる看護倫理について考え、自己の倫理観を涵養する。
7. 老年期の生活の質を保障する老年看護のあり方について考察する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	ライフサイクルから見た老年期	・自己の老年観とエイジズム ・「老人・高齢者」(老年期)の定義 ・エイジング(aging)とサクセスフルエイジング ・「ある高齢患者の入院体験記」を読んでdiscussion	
2	老年期の発達と成熟	・老年期の発達課題 ・老年各期(前期高齢者・後期高齢者)の特徴	祖父祖母へのインタビュー内容をもとにして
3	加齢に伴う変化①	・加齢に伴う変化の特徴 ・身体的機能の変化(内臓機能の変化、運動・体力の変化、感覚・知覚の変化) ・心理・精神的機能の変化 ・人格と尊厳 ・喪失体験	
4	加齢に伴う変化②	・社会的機能の変化 ・霊的变化	
	高齢者の健康①	・健康状態の多様性 ・healthy-wellness	
5	高齢者の健康② 高齢者の生活史	・高齢者の健康問題 ・高齢者の生活史 ・価値観の多様性 ・生活習慣・生活様式の多様性 ・QOL	
	高齢者と家族	・高齢者と家族のライフサイクル ・家族構成の変化 ・家族形態の変遷 ・高齢者と家族の人間関係 ・老老介護	
6・7	高齢者の人権擁護と老年看護における倫理的課題	・人権とは ・高齢者虐待(エイジズムとの関連) ・弱者の側面から見た高齢者と看護アドボケイト(擁護者)の意義 ・人権を尊重した看護活動の観点 ① 擁護者としての看護の役割 ② 高齢者と看護者による共同意思決定 ③ 医療サービスを受ける高齢者の満足感 ・高齢者虐待	
	高齢者と社会保障システム(保健医療福祉制度)	・高齢者の社会参加 ・高齢者のソーシャルサポート ・高齢者サービスシステム ・介護保険 ・老年看護活動の場の特徴と看護	

回	項目	内容	方法
8	褥瘡をあてることの是非(ディベート)	・褥瘡賛成派と褥瘡反対派に分かれてディベートを実施し、褥瘡をあてることの問題について理解を深めるとともに、老年看護のあり方について理解を深める	ディベート
9	身体拘束の是非(ディベート)	・身体拘束賛成派と身体拘束反対派に分かれてディベートを実施し、身体拘束の問題について理解を深めるとともに、老年看護のあり方について理解を深める	ディベート
10・11	高齢者の健康問題と介護	・テレビドラマ「恍惚の人」の鑑賞 ・「恍惚の人」を見て、老年看護のあり方についてdiscussion ・老年看護のkeyword:「支える」	DVD視聴 discussion
12・13	老年看護の実践とリフレクション	・「ユマニチュード入門」「パーソンセンタードケア」をもとにしたdiscussion	discussion
14・15	これからの老年看護 まとめ	・これまでの講義で学習した内容を総合して、老年看護のあり方について考察する	discussion

発展科目： 老年看護学の学習過程における導入部分として位置づけられ、老年看護の実践者にとって最も基礎的な知識と態度を涵養することで、老年看護援助論Ⅰ～Ⅲならびに老年看護実習Ⅰ～Ⅱの土台となります。

テキスト： 北川公子、他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学、医学書院
厚生統計協会：国民衛生の動向
本田美和子/イヴ・ジネス/ロゼット・マレスコッティ：ユマニチュード入門、医学書院、2014
寺田真理子：パーソンセンタードケア講座—認知症がある人と関わるためのはじめの一步
全国コミュニティライフサポートセンター、2010.

成績評価： 終講時試験、ディベート内容、授業へのコミットメント等により総合的に評価

科目名	高齢者のアセスメントとセルフケアの支援
授業科目の区分	専門分野Ⅱ 老年看護学
履修対象	2年次 前期
単位	1単位 30時間
担当講師	専任教師 2名
授業概要	高齢者の特徴とそれに伴う健康上の諸問題と動向を知り、対象に応じた看護を行う基礎的能力を養う。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	老いるということ	高齢者体験	演習
2	老いるということ	老年看護の理念 生活志向の看護 生理的・精神的・社会的ニーズを満たす 生活への援助 高齢者看護の特性 看護者の態度 高齢者の特性からみた高齢者看護	講義
3	高齢者のヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの基本 ヘルスアセスメントの枠組み 高齢者総合機能評価(CGA)	講義
4	高齢者のヘルスアセスメント	身体に加齢変化とアセスメント ①皮膚 ②視聴覚 ③循環系 ④呼吸器系 ⑤消化器系 ⑥ホルモンの分泌 ⑦泌尿生殖器 ⑧運動系	講義
5	高齢者のリスクマネジメント	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と医療安全 高齢者と救命救急 高齢者と災害	講義
6	高齢者の生活機能を整える看護	食事・食生活	講義
7	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活を支える基本的活動	講義
8		排泄	GW
9		清潔・入浴	
10		生活リズム コミュニケーション	
11	高齢者の生活機能を整える看護	住まい 経済状況 社会状況	講義
12	高齢者の生活機能を整える看護	排泄ケアの特徴 おむつの歴史 おむつがもたらす弊害 おむつ交換	講義 演習
13	エンドオブライフケア	エンドオブライフケアの概念 「生きる」ことを支えるケア 意思決定への支援 末期段階に求められる援助	講義
14	生活・療養の場における看護	高齢者とヘルスプロモーション	講義
15	高齢者のヘルスプロモーション	高齢者とレクリエーション	演習

発展科目:	在宅看護論、臨地実習
テキスト:	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院
成績評価:	終講時試験 参加度

科目名	健康障害を持つ高齢者の看護
授業科目の区分	専門分野Ⅱ 老年看護学
履修対象	2年次 後期
単位	1単位 30時間
担当講師	専任教師 1名 非常勤講師 1名
授業概要	老年期にある健康障害の特徴、診断治療過程における看護の基礎について学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	疾患・障害に対する看護	老年症候群 脱水・浮腫	講義
2	疾患・障害に対する看護	痛み しびれ	
3	疾患・障害に対する看護	転倒・骨折 骨粗鬆症 ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル	
4	疾患・障害に対する看護	パーキンソン病、パーキンソン症候群	
5	疾患・障害に対する看護	掻痒(かゆみ) 老人性皮膚掻痒症 疥癬	
6	疾患・障害に対する看護	高齢者に多い主な感染症 肺炎・誤嚥性肺炎、インフルエンザなど 感染性胃腸炎 高齢者とがん	
7	認知機能障害のある高齢者の看護	うつ 高齢者のうつの背景と特徴、援助	講義
8	認知機能障害のある高齢者の看護	せん妄 高齢者のせん妄の特徴と予防、援助	
9 10 11	認知機能障害のある高齢者の看護	認知症 認知症の定義・症状 四大認知症 アルツハイマー型認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 脳血管性認知症 認知症の診断、認知機能の評価 認知症の看護	
12	薬物療法を受ける高齢者の看護	加齢に伴う薬物動態の変化 ポリファーマシー 高齢者に多い薬物有害事象 薬物療法における援助・服薬管理	講義
13 14	入院治療を受ける高齢者の看護	診察・検査 手術を受ける高齢者の看護 高齢者に特徴的な手術 入院から退院までの支援 リハビリテーション	
15	高齢者を介護する家族の看護	介護家族の生活と健康 家族への援助	

発展科目： 在宅看護論
 テキスト： 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院
 成績評価： 学科試験
 参加度

科目名 老年看護の実践

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 老年看護学

履修対象 2年次 後期

単位 1単位 15時間

担当講師 非常勤講師 2名

授業概要 1. 疾患や障害を持つ高齢者に対し、生活機能の視点から看護に必要なアセスメント能力を養う。
2. 医学的管理を必要とする看護技術について学ぶ。
3. 患者・家族の自己管理およびセルフケア支援の方法を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3	褥瘡・スキンケアの看護	高齢者の皮膚の特徴 スキンケア スキンケア 褥瘡の発生機序、リスクアセスメント 褥瘡の分類、治療・創傷管理 ポジショニング	講義
4 5 6	排泄障害の看護	排泄について 高齢者の排泄ケアの基本 排尿障害のアセスメントとケア 排便障害のアセスメントとケア	講義 講義
7 8	ストーマ造設患者の看護	ストーマの分類 消化管ストーマ 尿路ストーマ ストーマ造設時の看護 術前のアセスメント ストーマサイトマーキング ストーマ管理 ストーマケア	講義 演習

発展科目： 在宅看護論、臨地実習

テキスト： 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚 医学書院

成績評価： 終講時試験
参加度

科目名 小児看護学の概論
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 小児看護学
 履修対象 1年次 後期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 専任教師

授業概要 小児を取り巻く社会環境の変化、子どもの権利・人権について学び、看護の役割について理解する

授業計画

回	項目	内容	方法
1	小児看護とは 小児看護の歴史と意義	子どもに対するイメージマップを書こう 小児看護の対象 小児看護の目的 小児看護の歴史	講義、DVD イメージマップ
2 3	子どもの権利と看護	子どもの人権 児童憲章、子どもの権利条約 子どもに関する新聞記事 小児看護と倫理的配慮	講義 グループワーク NIE
4	小児看護と法律・施策	小児医療の課題 子どもを取り巻く社会環境(統計含む) 児童福祉法、母子保健法	講義
5	障害のある子どもと家族の看護	障害のとらえ方 障害のある子どもと家族のニーズ 社会的支援	講義、ビデオ グループワーク
6 7	子どもの最善の利益	子どもの最善の利益について考える 事例を用いて考えよう	グループワーク

発展科目: 小児の成長発達と看護、健康障害をもつ小児の看護、小児看護技術

テキスト: 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1
小児看護学概論 小児臨床看護総論

成績評価: 筆記試験、レポート、講義・演習への参加状況などに基づいて評価する

科目名 小児の成長発達と看護
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 小児看護学
 履修対象 2年次前期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要

子どもの成長発達健康増進のための子どもと家族への看護実践を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	子どもの成長・発達	子どもの成長・発達の原則と影響因子 子どもの成長・発達のアセスメント 小児期における成長・発達の特徴	講義・演習 NIEを取り入れて演習
2 3 4 5	乳児期の成長・発達に応じた生活への支援	・乳児期とは ・形態的特徴・身体生理の特徴 ・感覚器機能、運動機能、知的機能 ・コミュニケーション機能、情緒・社会的機能 ・乳児の養育および看護 日常生活の世話 遊びの支援 事故防止 乳幼児突然死症候群とその予防 育児支援	講義、演習 ロールプレイ 調乳演習・ 離乳食試食
6 7 8 9	幼児期の子どもの成長・発達と看護	・形態的・身体生理の特徴 ・機能的発達の特徴 ・心理・社会的発達 ・幼児の養育 排泄、食事、睡眠、清潔、遊び、安全 ・幼児のいる家族への看護 ・エリクソン自我発達理論 ・ピアジェの認知発達理論	講義、演習 グループワーク
10 11 12	学童期の子どもの成長・発達と看護	・学童期とは ・形態的特徴 ・機能的発達 ・心理・社会的発達 ・学童を取り巻く環境 ・学童の養育と看護 ・学校保健 ・予防接種 ・エリクソン自我発達理論 ・ピアジェの認知発達理論 ・セルフケア理論	講義
13	思春期の子どもの成長・発達と看護	・思春期とは ・身体的特徴 ・機能的発達 ・心理・社会的発達 ・思春期の人々によく見られる健康問題 ・思春期の人々の看護 ・エリクソン自我発達理論	講義
14 15	子どもについて (社会環境・健康問題等)	子どもの虐待	講義 グループワーク

発展科目: 小児看護学の概論、健康障害をもつ小児の看護、小児看護技術
 テキスト: 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1
 小児看護学概論 小児臨床看護総論
 成績評価: 筆記試験、レポート、講義・演習への参加状況などに基づいて評価する

科目名 健康障害をもつ小児の看護
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 小児看護学
 履修対象 2年次後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 3名
 授業概要 健康障害が小児及び家族に及ぼす影響について理解し、あらゆる健康状態にある小児及びその家族の看護について理解する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3	代表的な小児疾患の理解	新生児期に多い疾患 (新生児一過性多呼吸・呼吸窮迫症候群・脳室周囲白質軟化症 未熟児網膜症・ファロー四徴症・心房中隔欠損症・心室中隔欠損症) 染色体異常(ダウン症候群・18トリソミー・性染色体異常) 感染症:麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘・髄膜炎 神経疾患:脳性麻痺・進行性筋ジストロフィー	講義
4 5	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	子どもの病気の理解 健康障害に伴う子どものストレスと対処 子どもの健康障害と援助 子どもの健康障害に対する家族の反応 健康障害を持つ子どもの家族への支援 入院中の子どもと家族の看護	講義 GW
6 7 8	急性期にある子どもと家族への看護	急性期にある子どもと家族への援助 症例を用いて病態の理解 (肺炎・川崎病・幽門狭窄症・腸重積症・腸炎)	講義 GW
9 10	慢性期にある子どもと家族への看護	慢性期の特徴 慢性期にある子どもと家族 慢性期にある子どもと家族のエンパワメントを支援する看護 症例を用いて病態の理解 (Ⅰ型糖尿病・気管支喘息・ネフローゼ症候群)	講義 GW
11	終末期にある子どもと家族への看護	子どもの死の概念発達 終末期にある子どもと家族の心理 終末期にある子どもの身体徴候、痛み・不安に対する援助 終末期にある子どもの家族への援助	講義
12	外来における子どもと家族への看護	外来看護の果たす役割 外来看護における子どもと家族への援助、小児外来の環境 外来看護の現状の課題と今後の展望	講義 演習 ビデオ
13 14	在宅における子どもと家族への看護	小児在宅療養の意義、小児在宅ケアの現状 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴 在宅療養を行う子どもと家族への看護 在宅療養の継続における看護 障害のある子どもと家族の社会的支援	講義 GW
15	災害を受けた子どもと家族への看護	被災地の環境と看護の役割 災害を受けた子どもの心と身体への影響 災害時の子どもと家族への看護	講義

発展科目: 小児看護学の概論、成長発達と看護、小児看護技術
 テキスト: 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1
 小児看護学概論 小児臨床看護総論
 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護学各論
 成績評価: 筆記試験、レポート、講義・演習への参加状況などに基づいて評価する

科目名 小児看護技術
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 小児看護学
 履修対象 2年次後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 2名
 授業概要

技術は子どもの安全のうえで大切である。一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供していく。基礎看護学などでの学びを基礎に、成長・発達途上にあるがゆえに、環境の影響を受けやすく変化が早い、健康を障害された小児の理解と特性に応じた看護援助技術の方法を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	援助関係を形成する技術	子どもとの援助関係を形成する技術 家族との援助関係を形成する技術 援助関係を形成する上で必要な基礎知識 援助関係を形成する技術の活用 子どもへの説明と同意 子どものコミュニケーション	講義 グループワーク ロールプレイ
3 4	症状・生体機能の管理技術	バイタルサインの測定 身体計測 発育の評価：形態的性徴の観察と評価 心理学的発達の評価法 検査(採尿・採便・骨髓穿刺・腰椎穿刺)	講義、演習
5 6		発熱時のアセスメントと看護 脱水時のアセスメントと看護 痙攣時のアセスメントと看護	講義
7 8	検査や処置・手術を受ける子どもと家族への看護	手術を受ける子どもの特徴 子どもの力を引き出す援助、プレパレーション 手術を受ける術前・術後の看護 検査や処置・手術を受ける子どもの家族への援助 安全・安楽を確保するための援助	講義、演習 ビデオ
9	環境を調節する技術	発達段階に応じた環境づくり 睡眠と休息に適した環境づくり 事故を防止する環境づくり 感染予防のための環境づくり	講義 グループワーク
10	食事・排泄の援助技術	子どもへの食事援助の実際 子どもの健康状態に応じた食物・栄養摂取方法とケア 子どもへの排泄援助の実際	講義、演習
11 12 13	呼吸・循環を整える技術	酸素療法 吸引 吸入 人工呼吸器の管理 呼吸困難時のアセスメントと看護 生命徴候が危険な状況のアセスメントと看護	講義、演習
14 15	与薬の技術	経口薬 座薬 注射 輸液管理	講義、演習

発展科目： 小児看護学の概論、成長発達と看護、健康障害をもつ小児の看護
 テキスト： 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1
 小児看護学概論 小児臨床看護総論
 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術
 成績評価： 筆記試験、レポート、講義・演習への参加状況などに基づいて評価する

科目名 母性看護学の概論

56

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 母性看護学

履修対象 1年次 後期

単位 1単位 15時間

担当講師 専任教師

授業概要 ライフサイクルにおける母性の特性と起こりやすい健康障害を持つ人々とその人を取りまく人々への看護について理解する。

授業計画

回	学習項目	内容	方法
1	母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス/ライツ	講義 GW
2	母性看護の基盤となる概念	1) 母性看護のあり方 2) 母性看護における倫理	講義 GW
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1) 母性看護の歴史的変遷と現状 2) 母性看護の提供システム	講義 GW
4	女性のライフステージ各期における看護	1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護 2) 思春期の健康と看護	講義 GW
5	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 不妊治療後に妊娠・出産した女性と家族への看護 2) 先天異常を持つ子どもを出産した女性と家族への看護 3) 周産期に子どもを亡くした女性と家族への看護	講義
6	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人工妊娠中絶と看護	講義 GW
7	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 性暴力を受けた女性に対する看護 2) 児童虐待と看護	講義 GW
8	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 国際化社会と看護 2) 災害時における女性と妊産婦・新生児への支援	講義 GW

発展科目: マタニティサイクルにある人々の看護-1・2・3

母性看護学実習

小児看護学の概論

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院

評価方法: 終講時試験、レポート、参加度

2021.3改訂

科目名	マタニティサイクルにある人々の看護－1【妊婦・産婦】	57
授業科目の区分	専門分野Ⅱ 母性看護学	
履修対象	2年次 前期	
単位	1単位 30時間	
担当講師	専任教師 2名 非常勤講師 1名	
授業概要と目的	妊娠・分娩の生理を理解し、この時期にある人々とその人を取りまく人々への看護を理解する。	

授業計画

回	学習項目	内容	方法
1	妊娠期の看護	妊娠の成立（月経周期も含む） 妊娠期間と分娩予定日	講義
2		妊娠期の身体的特徴 妊娠期の心理的特徴	講義
3		胎児の発育と胎児付属物の機能 妊婦健康診査の概要、妊婦への検査	講義
4		妊娠経過のアセスメント ヘルスアセスメントに必要な技術	講義
5		ヘルスアセスメントに必要な技術	演習・GW
6		健康状態を保持・増進するための看護	マタニティスーツによる妊婦体験等
7		予測される問題と看護 出産準備への看護	
8		健康状態を保持増進するための看護	GW発表
9		予測される問題と看護 出産準備への看護	
10	分娩期の看護	分娩期にある対象の特性 分娩期に必要な用語 分娩の現象の経過・解剖	講義
11		分娩が母胎に及ぼす影響 分娩経過に影響を及ぼす因子 産痛	講義・GW
12		分娩の開始・予測 分娩経過の判断 胎盤娩出・胎児の状態	講義・GW
13		分娩経過の予測 バースプランについて	講義・GW
14		入院時に必要な情報 看護計画	VTR視聴 GW
15		分娩時に必要な情報 看護計画	VTR視聴 GW

発展科目： マタニティサイクルにある人々の看護-2
マタニティサイクルにある人々の看護-3
小児看護学
母性看護学実習

テキスト： 母性看護学Ⅰ 概論 医歯薬出版株式会社
母性看護学Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版株式会社
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院

評価方法： 終講時試験
レポート、出席状況

2020.2改訂

科目名	マタニティサイクルにある人々の看護－2【褥婦・新生児】
授業科目の区分	専門分野Ⅱ 母性看護学
履修対象	2年次 後期
単位	1単位 30時間
担当講師	専任教師 1名 非常勤講師 3名
授業概要と目的	産褥・新生児の生理を理解し、この時期にある人々とその人を取りまく人々への看護を理解する。

授業計画

回	学習項目	内容	方法
1	産褥期の看護	産褥期看護の特徴 産褥期の身体的特徴	講義・GW
2		母乳分泌 産褥期の心理社会的特徴	講義・GW
3		復古に関する看護 退院後の生活調整への支援	講義・GW
4		母乳育児に関する看護	講義・GW
5		産褥経過のアセスメント 母性看護過程	講義・GW
6		母性看護過程演習	演習(実習室)
7		事例のアセスメント・看護計画立案	
8		沐浴演習	
9		産褥期の看護シミュレーション	演習(実習室)
10		育児支援	GW
11	新生児の看護	新生児の定義 新生児の形態・機能 体外生活への適応(循環・体温・消化)	講義
12		新生児の観察 新生児の診断・検査・評価 新生児の代表的な疾患・治療・看護	講義
13		新生児の看護 出生直後、出生直後から退院まで 産前訪問、母子同室、清潔、環境、医療事故	講義・GW
14		新生児の成長・発達を促す看護 早産児・低出生体重児の特徴、ディベロップメンタルケア	講義
15		疾患を持つ新生児の家族の看護 新生児の家族の看護、看取りの看護	講義・GW

発展科目:	マタニティサイクルにある人々の看護－1 マタニティサイクルにある人々の看護－3 母性看護学実習 小児看護学
テキスト:	母性看護学 Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版株式会社 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院
評価方法:	終講時試験 レポート、グループワーク参加度、出席状況

科目名 マタニティサイクルにある人々の看護 - 3 【ハイリスク状態にある妊・産・褥婦】
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 母性看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師

授業概要と目的

(目的) ハイリスクを伴ったマタニティサイクルにある人々とその人を取りまく人々への看護を理解する
 (授業概要) 「母性看護学概論」「マタニティサイクルにある人々の看護—1・2」での学びを土台に、
 妊産褥婦に起こり得る正常を逸脱した状況における看護及びその家族について学習し理解を
 深め、更に予防について考える。

(学習への取り組み) ・妊産褥婦の正常経過や判断基準を理解しておく。

・医療・社会情勢の変化に伴い、マスメディアや専門雑誌に関心を寄せる。

・日常生活に目を向けて母性看護に関連して考える。

授業計画

回	学習項目	内容	方法
1	妊娠の異常と看護	・ハイリスク妊娠とは	講義・課題学習
2		・高齢妊婦（出生前診断も含む）・若年妊婦の看護	
3		・多胎妊娠	課題学習 グループワーク 振り返りとまとめ
4		・妊娠高血圧症候群妊婦の看護	
5		・切迫流・早産妊婦の看護 ・糖尿病妊婦の看護	
6	分娩の異常と看護	・妊娠性貧血妊婦の看護	講義・課題学習
7		・破水が生じた産婦の看護	
8		・分娩時異常出血のある産婦の看護	講義・課題学習
9		・胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護	講義
10		・急速遂娩（吸引分娩・鉗子分娩・帝王切開）を 受ける産婦の看護（陣痛の異常も含む）	講義
11	産褥の異常と看護	・分娩遷延のリスクのある産婦の看護	講義・演習
12		・感染症を持っている褥婦の看護	講義
13		・産後の精神障害について ・帝王切開術後の看護	講義・課題学習 グループワーク 振り返りとまとめ
14	その他問題を持つ 褥婦・家族の看護	・死産・障害がある新生児を出産した親の看護	講義・課題学習 グループワーク 振り返りとまとめ
15			

発展科目 マタニティサイクルにおける人々の看護—1・2

小児看護学（健康障害をもつ小児の看護）

母性看護学実習

テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院

母性看護学Ⅰ 概論 医歯薬出版株式会社

母性看護学Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版株式会社

課題：「死産・障害がある新生児を出産した親の看護」事前に関連のある本を読んでレポートを1月 日提出

レポートは①本を選択した理由②分かりやすく本の内容③本の内容で感じた理由

④まとめ（得た事、考えた事）⑤その他（「本のタイトル」「著者名」「出版社名」）

評価方法： 終講時試験（80％） 課題学習（レポートも含む）（20％）

2020.2 改訂

科目名 精神看護学の概論

60

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 精神看護学

履修対象 1年次 後期

単位 1単位 30時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 1. 精神の構造と機能を理解し、健康レベルと障害との関連や精神の不健康状態について理解する
2. 精神の発達や健康障害について理解する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神看護学の考え方(1)	1) ころとは何か 2) ころの捉え方	講義
2	精神看護学の考え方(2)	3) ころの多様な側面1	グループワーク
3	精神看護学の考え方(3)	4) ころの多様な側面2	発表と相互評価
4	心の構造と働き(1)	1) 認知と感情	講義・演習
5	心の構造と働き(2)	2) 学習と行動1	講義
6	心の構造と働き(3)	3) 学習と行動2	講義
7	心の構造と働き(4)	4) パーソナリティ	講義・演習
8	心の発達(1)	フロイトとエリクソン	講義
9	心の発達(2)	ピアジェ、ボウルビィ、レヴィンソン他	講義
10	家族論	1) 家族のイメージ 2) 家族の機能 3) システムとしての家族	講義・演習
11	精神保健の考え方(1)	1) 正常と異常	講義
12	精神保健の考え方(2)	2) ストレスとその対処 3) 自己効力感	講義・演習
13	主な精神疾患	1) 統合失調症 2) 気分障害 3) その他の疾患	
14	精神疾患の治療	1) 薬物療法 2) 精神療法 3) 社会・環境療法	講義
15	看護の倫理と人権擁護	1) 精神医療におけるアドボカシーの必要性 2) 生活の場としての治療環境 3) 様々な拘束の形 4) 精神障害者の権利擁護	講義

発展科目： 看護学全般 精神看護学実習

テキスト： 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院

成績評価： 終講時試験、グループワークへの参加と発表評価

科目名 精神障害を持つ人の理解
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 精神看護学
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要 精神障害の診断と治療を理解し、看護援助に活かす。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 精神医療と看護の歴史的変遷	1) 日本の精神保健医療看護の歴史 2) 精神医療の現状と問題	講義
2	2. 精神障がい者の分類と特徴	1) 統合失調症	講義
3		2) 気分障害	講義
4		3) 不安障害 4) 人格障害（パーソナリティ障害） 5) アルコール依存症	講義
5		6) 身体表現性障害 7) PTSD 8) 認知症	講義
6	3. 医学的検査と心理検査		講義
7	4. 治療の構造 1) 身体療法	(1) 薬物療法 (2) 電気けいれん療法	講義
8	2) 精神療法	(1) 個人・集団精神療法 (2) 家庭(社会) 精神療法	講義

発展科目： 精神看護学他、看護学全般
 精神看護学実習
 テキスト： 精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版 NOUELL HIROKAWA
 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 NOUELL HIROKAWA
 成績評価： 終講時学科試験

科目名 精神に障害を持つ人の生活と看護

62-1

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 精神看護学

履修対象 2年次 後期

単位 1単位 30時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 精神に障害をもつ人の共感的理解を通じて、種々の疾患や症状およびその治療過程における看護を学ぶ。症状による苦痛の軽減や生活上の困難を補うこと、また健康の回復と社会復帰に向けた自立の支援について学習する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神臨床看護 Ⅰ. 精神看護の考え方 Ⅱ. 精神を病む人の理解と対応	1) 精神看護の考え方 2) 精神看護師の役割 3) 精神看護の経済性 1) 精神疾患患者の理解 2) 行動制限と看護	講義
2	Ⅱ. 精神を病む人の理解と対応	3) 急性期から回復期・慢性期の看護	講義
3	Ⅲ. 精神看護のリスクマネジメント Ⅳ. 精神看護に用いる理論・モデル	1) リスクマネジメントとは 2) 精神科医療における医療事故 3) 事故防止と対応 4) 無断離院の防止と対応 セルフケア理論	講義
4 5	Ⅴ. 精神を病む人への看護援助の基本	1) 日常生活援助 2) 活用する技法 コミュニケーション ロールプレイング カウンセリング S S T 作業療法 面接 レクリエーション	講義
6	Ⅵ. 精神看護の看護過程 Ⅶ. 司法精神看護	精神看護の看護過程 1) 司法精神医療と医療観察法 2) 医療観察法における処遇 3) C V P P P	講義
7	精神看護の実践 症状アセスメントとケアプラン	1) 幻覚・妄想患者の看護 2) せん妄患者の看護	講義
8		3) 抑うつ状態の患者の看護 4) 興奮状態の患者の看護	講義
9		5) 拒絶的な患者の看護 6) 引きこもり状態の患者の看護	講義
10		7) 操作をする患者の看護 8) 自殺・自傷行為がある患者の看護 9) 不眠状態の患者の看護	講義
11		10) 依存状態の患者の看護 11) 認知症の患者の看護 12) 不安状態の患者の看護	講義
12		13) 意欲減退状態の患者の看護 14) 攻撃的行動をとる患者の看護 15) 強迫行為のある患者の看護	講義

回	項目	内容	方法
13	精神看護の実践 症状アセスメントと ケアプラン	16) 躁状態の患者の看護 17) 解離性障害の患者の看護 18) 摂食行動の障害の患者の看護	講義
14		19) パニック障害の患者の看護 20) 児童・思春期・青年期の精神看護 21) 身体合併症患者の看護	講義
15	精神訪問看護 精神障害者の リハビリテーション	1) 精神科リハビリテーション 2) 精神訪問看護	講義

発展科目： 精神看護学および看護学実習全般
 テキスト： 精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版 NOUELLE HIROKAWA
 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 NOUELLE HIROKAWA
 成績評価： 終講時学科試験

2016.8改訂

科目名 生活の場と精神保健

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 精神看護学

履修対象 2年次 後期

単位 1単位 15時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 精神保健医療福祉における現状と支援活動、災害精神保健活動について解説

63

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神保健医療福祉の 実際	新聞やインターネット等で配信されている最新の 精神保健・医療・福祉の実際について資料学習。	資料・パワーポイ ント・DVD視聴
2	家庭・学校・職場の 精神保健	テキスト「精神保健と社会」①～③の項目に沿って 解説。課題分析のためのアセスメントの個人ワーク 学習。	テキスト・資料・ パワーポイント・ DVD視聴 (第2回講義以降
3	保健医療に関する 資源の活用と調整	テキスト「精神保健と社会」④の項目に沿って解説。 精神科病院や行政機関の支援の実際を紹介。	同じ)
4	社会資源の活用と ケアマネジメント	テキスト「精神保健と社会」⑤の項目に沿って解説。 姫路市内の障害福祉サービス事業所の活動と支援 技術であるケアマネジメントの視点・技術を学習。	

5	災害時地域精神保健 医療活動	阪神大震災以降活動している行政と精神科病院が連動して取り組んでいる災害時の支援を学習。 ひょうご DPAT 活動やサイコロジカルファーストエイドの実際を確認。	
6	社会復帰・社会参加 の基本	テキスト「精神保健と社会」⑦の項目に沿って解説。 精神保健福祉法等における退院支援について説明。 模擬事例を用いた、精神科病院からの退院支援の	
7	事例学習	実際についてグループワークを行う。 これまでの講義のふりかえりを行う。	
8	まとめ		

コメント 姫路市内の精神保健医療福祉活動を交えて解説。

発展科目 精神保健医療の歴史についても確認。

テキスト 精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版 NOUVELLE HIROKAWA

成績評価 終講時学科試験

2019.3 改訂

科目名 在宅看護論の概論
 授業科目の区分 統合分野
 履修対象 2年次 前期
 単位 30時間
 担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 3名
 授業概要

64

1. 在宅看護の特徴を学ぶ
2. 住み慣れた、生活の場において看護を受ける療養者とその家族を理解する。
3. 在宅療養者とその家族の権利擁護や生活を支える制度について学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	在宅看護の概念	地域療養を支える在宅看護の役割・機能	講義
2		在宅看護の背景・変遷と課題	
3		在宅看護の基盤	
4		在宅看護の倫理と基本理念	GW 発表
5		在宅療養者と家族の権利を守るためには	GW 発表
		「概論で学んだ状況を地域で確認してレポートにまとめる」	レポート
6	在宅療養を支える制度	日本の医療 福祉の変遷	講義
7		介護保険について	
8	地域包括ケアシステムにおける在宅看護	在宅ケアとケアマネジメント 在宅ケアにおける関係機関・関係職種の連携・協働 地域包括ケアシステムと在宅ケア ケアプラン作成	GW 発表
9	在宅療養を支える看護	訪問看護の特徴 在宅ケアを支える訪問看護ステーション	講義
10	在宅療養者と家族の支援	訪問看護の実践 在宅療養者と家族の支援 在宅看護と家族	
13	在宅看護における安全と健康危機管理	在宅ケアと危機管理	
14	在宅療養を支える制度	障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 在宅難病療養者を支える制度と社会資源	講義
15		子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	

発展科目：在宅看護を学ぶ上で基礎になる考え方や社会資源について学ぶ

テキスト：ナースング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
 ナースング・グラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支える技術

参考図書：系統看護学講座 老年看護学 医学書院

成績評価：終講時試験(80)、課題レポートの内容(10)、授業への参加度(10)を考慮する。

2021. 3改訂

科目名 在宅における生活支援
 授業科目の区分 統合分野 在宅看護論
 履修対象 2年次後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 2名 他
 授業概要

65

在宅療養者と家族の生活や価値観を尊重した上で、生活を支援することを学ぶ。
 在宅療養者と家族の生活行動についてアセスメントする能力を身につけ、自立を目指した援助が出来る基礎的能力を身につける。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	在宅における生活支援とは 高齢者の健康と安全	健康な高齢者をめざして 高齢期の理解 高齢者に起こりやすい事故の予防と手当、急病への対応	赤十字健康生活支援講習の内容を含む 講義 演習
5	地域における支援活動	支援活動について 地域における高齢者の理解 地域包括ケアシステム 支援活動にあたって ともに楽しいひとときを 外出、散歩に誘いましょう 地域を支えるネットワーク	
10	日常生活における介護	介護にあたって 地域包括支援センターの業務 居室の環境 移動 車椅子への移動動作 食事 排泄 着替え 清潔 認知症高齢者への対応 人生のエンディングを考える 介護者の健康管理 癒しのハンドケア	
11	事例で考えてみよう	脳卒中後遺症のある患者 安全な環境とは 安楽な身体の清潔の援助とは 安全な移動方法とは 食事について	グループワーク 事例で考える
13	訪問看護に行こう	実際の援助場面を設定し、演習をする どのような援助が必要か考えてみよう。 どのような物品が必要か考えてみよう。 援助を行ってみよう。	演習
14	まとめ	まとめ 発表	グループワーク
15			発表

発展科目： 在宅看護論実習 他
 テキスト： ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支える技術 メディカ出版
 赤十字健康生活支援講習の教本
 参考図書： 系統看護学講座 老年看護学、老年看護病態・疾患論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院
 成績評価： 終講時試験
 講義・演習・グループワークへの参加度

2021.3 改訂

科目名 在宅における看護技術
 授業科目の区分 統合分野 在宅看護論
 履修対象 2年次前期
 単位 1単位30時間
 担当講師 専任教師 2名
 授業概要

1. 在宅看護で必要な生活を整える技術について学ぶ。
2. 医学的管理を必要とする看護技術について学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	在宅看護の特徴	看護師のアセスメント能力	講義
2	食の援助	「食べる」ことに関するアセスメント	演習
3	経口摂取できない場合の 栄養摂取について	経管栄養法 PEG 在宅中心静脈栄養法 (HPN)について	講義
4		経管栄養法 PEG 在宅中心静脈栄養法 (HPN)について	演習
5・6		アルフレッサ講義・演習	講義 演習
7	排泄の援助	排泄の生理 摘便	講義
8		摘便の方法	演習
9		透析療法時の看護 血液透析・腹膜透析の原理	
10	呼吸の援助	呼吸のアセスメント 口腔内・気管内吸引	講義
11		気管切開 気管カニューレ 吸引	演習
12		フィリップスジャパン 在宅人工呼吸療法 (HMV) について	講義 演習
13		帝人 在宅酸素療法 (HOT)	講義 演習
14	在宅を支える災害対策	在宅療養における災害対策	GW
15	療養を支える看護技術とは	意義と目的 まとめ	講義

※ 都合により、講義の順序が前後する可能性があります。

発展科目：在宅における看護技術を使って看護実践に結びつける

テキスト： ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版

成績評価：受講態度（講義・演習への参加度） 筆記試験

科目名 在宅における看護実践
 授業科目の区分 統合分野 在宅看護論
 履修対象 2年次後期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 専任教師 2名 非常勤講師 1名
 授業概要 在宅看護に特徴的な事例を取り上げて、既習の在宅看護論の授業と関連させながら学ぶ。また演習を通して実践に近いかたちで学ぶ。

67

授業計画

回	月 日	項目	内容	方法
1		在宅看護の対象者 訪問看護の実際	シラバス確認 変更点説明 訪問看護の対象(復習・想起) 地域包括ケアシステムにおけるセルフマネジメント力の向上とは ALSについての理解を深めるために 事前課題 ・映画を鑑賞しての感想・看護師としての支援方法 ・ALSに関連した記事・ブログを視聴内容の紹介・感想 本授業においてのグループワークの展開について 訪問看護展開事例(テキスト事例1～9より)選択	シラバス確認 講義 PPT 先駆的実業紹介 G.Wと発表 (グループ記録提出) 確認
2		難病ALSについて	難病とは・ALSについて理解を深める ・ALSに関連した記事・ブログを視聴内容の紹介・感想 ・ALSの病態・治療・看護・在宅療養を継続していくために整えていくこと 訪問看護の実際について聞く ホームホスピスの実際について聞く	事前課題発表 講義 講義
3		事例で考える	事例に基づき、訪問看護実習の様式1～4を作成する 事例の構造図を作成する	G.W
4		事例で考える	構造図・様式1～4について進捗状況を発表する	プレゼン
5		事例で考える	看護計画に沿った訪問看護のシナリオを作成する 演習計画:吸引、経管栄養、コミュニケーションなど	G.W
6		訪問看護の実際	実際の訪問看護を想定してロールプレイを実施する 訪問目的に沿った訪問看護の実施	ロールプレイ 1-4G
7		訪問看護の実際	実際の訪問看護を想定してロールプレイを実施する 訪問目的に沿った訪問看護の実施 評価項目と訪問看護として望ましい点・工夫する点も入力する。	ロールプレイ 5-8G 評価表に沿って
8		振り返りとまとめ	自己評価・他者評価からの学び 演習を通して学んだ訪問看護師として大切にしていきたいこと まとめ(45分) 状況により延長 演習を通して学んだこと・振り返り・意見交換 評価項目と訪問看護として望ましい点・工夫する点も入力する。	講義・意見交換 状況により分散 評価表に沿って 評価し共有
事後 課題		提出物	各グループの構造図・様式1～4・シナリオ提出 課題レポート「訪問看護演習を通して学んだこと」	月 日 提出 月 日 提出

事前課題: ALS関連の映画鑑賞「ギフトー僕が君に残せるもの-」「博士と彼女のセオリー」
 映画を鑑賞しての感想と訪問看護師としてどのような支援ができると考えたか
 ALSに関連する記事・ブログ・動画を検索して視聴する。
 ①検索・視聴したタイトルとその内容の要約と感想をまとめる。
 ALSについてのまとめ
 ①ALSの病態
 ②症状出現に伴う医療・看護
 ③在宅療養を継続していくために整えていくこと(療養者・家族・療養を支援する人々)
 発展科目: 在宅看護論実習他
 テキスト: ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版
 成績評価: 終講時試験(60%) 受講態度、GWへの参加度(20%)提出物の内容(20%)を加味する

科目名	災害看護論
授業科目の区分	統合分野
履修対象	2年次前期・後期
単位	2単位 30時間(トレーニングセンター:6時間の演習を含む)
担当講師	専任教師 2名 非常勤講師 1名
授業概要と目的	日本赤十字社兵庫県支部救護課職員、姫路赤十字病院社会課職員、学校教員 赤十字の理念である人道の具現化として赤十字災害救護活動への理解を深めることを目的とする。また、講義で学んだ知識と共に救護技術の習得を目指し、災害救護実習を実施する。災害救護訓練では、災害時に看護専門職の救護活動に必要な判断力と意思決定、基本的な救護技術、心構えと態度、行動力を習得する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	災害看護の基礎知識	1. 災害看護の定義と役割 2. 災害看護の対象 3. 災害看護の特徴と看護活動	講義
	赤十字と災害看護	1. 赤十字の理念と災害看護 2. 赤十字災害看護の法的根拠 3. 赤十字救護班 1) 救護班の編成と救護員の役割 2) 救護所の設営と運営・救護資機材	
3 4	災害とこころのケア	1. 被災者のこころのケア 2. 遺族のこころのケア 3. 被災救援者のこころのケア 4. 救援者のストレスとこころのケア	講義 グループワーク
5 6 7	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1. 災害サイクル別の看護 2. CSCATTTTの考え方 トリアージと応急処置 トリアージタグの取り扱い方 3. 災害看護活動の実際 1) 被災病院の初動体制・傷病者受け入れ 2) 救護所の立ち上げと傷病者対応 3) 避難所における健康と生活支援 4) 災害準備教育 4. 被災者特性に応じた災害看護の展開	講義 演習
8 9 10 11	救護所での医療活動	1. 救護所の設営 ①設営場所および救護所内のレイアウト ②人員および救護資機材の配置 ③役割想定 2. 総合シミュレーション ①メンバーの役割決定と連携 ②救護活動、応急処置の確認 ③トリアージ・応急手当・搬送	グループワーク 演習
12 13 14	災害救護訓練 トレーニングセンター	1. 基礎行動訓練 2. 災害救護演習	演習
15		デブリーフィング	ディスカッション

発展科目：すべての科目の統合である。災害時のみならず、平時の看護活動に役立つ。

テキスト：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院

成績評価：①課題レポート

②災害救護訓練(トレーニングセンター)、グループワークおよび演習参加状況

③学科試験

科目名 医療安全
 授業科目の区分 統合分野 看護の統合と実践
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位30時間
 担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 1名
 授業概要 人間の尊厳と生命の安全を守る看護者としての責任を果たすためのリスクに関する感性を高め、医療事故を未然に防ぐ基礎的能力を身につける。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 医療安全の意味と重要性	1.医療安全を学ぶ意義 2.医療安全に関わる「動向」 3.医療安全の対象 4.医療事故に関する基礎知識	講義
2 3	2. 看護職の法的規定と医療安全 3. 医療安全の取り組み 4. 事故発生のメカニズム	1.看護職の法的規定 2.国の医療安全への取り組み 3.看護職能団体の取り組み 4. 事故発生のメカニズム	講義 GW
4	5. メタ認知とアサーティブコミュニケーション	1. メタ認知 1) 自己モニタリング機能（知識・能力・認知活動） 2) 自己コントロール機能（方略選択・調節） 3) 危険予知 2. アサーティブなコミュニケーション （相手を不快にさせずに必要なことは発言する力）	講義
5	6. 患者・家族との協同と安全文化の醸成	1. 医療安全管理者の役割 2. 全員参加の医療安全：安全文化の醸成	講義
6 7 8	7. 看護における医療事故と安全対策	1. 看護業務と事故発生要因 2. 医療事故の種類：その分析と対策 （患者誤認予防、誤嚥、薬物遺残、皮膚障害、 医療器のトラブル、チューブ類のトラブルなど）	講義
9	8. 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	1. アナフィラキシーショック、医薬品への曝露など 2. 患者、同僚および第三者による暴力、ハラスメント	講義
10 11 12	9. 医療事故発生時の対応	1. 初期対応の考え方と方法 2. 紛争化の防止対策	講義
13	10. 看護学生の実習と安全	1. 実習における事故の法的責任と補償 2. 実習中における事故予防及び事故発生時の学生の対応 3. 実習における安全についての指導者の役割	講義
14 15	11. 事例から考えよう	インシデント・アクシデント分析方法	GW

発展科目：各看護学実習

テキスト：ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版

成績評価：終講時テスト・参加度

2021.3改訂

科目名 看護管理

授業科目の区分 統合分野 看護の統合と実践

70

履修対象 3年次 前期

単位 1単位 15時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 看護を提供するための資源(人的資源・物理的資源・財的資源)を有効利用し、それを有効活用するための仕組みを理解する。看護師としての調整とリーダーシップ及びマネジメントができる能力を養う。

事業計画

回数	時間	項目	内容	方法
1	2	看護とマネジメント	看護管理学 看護マネジメントの変遷等	講義
2	2	看護ケアと マネジメント	マネジメントと看護職の機能 患者の権利と尊重 安全管理 チーム医療 看護業務の実践	講義 グループワーク
3	2			
4	2	看護職のキャリア マネジメント	キャリア形成 タイムマネジメント ストレスマネジメント	講義
5	2	看護サービスの マネジメント	組織目標達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材マネジメント 施設・設備環境・情報マネジメント リスクマネジメント サービス評価	講義 グループワーク
6	2			
7	2	看護を取り巻く 諸制度	看護職にかかわる制度 医療制度 看護政策と制度	講義
8	1	マネジメントに必要な 知識と技術	組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント 組織の調整	講義

発展科目： 看護学に関するすべての科目

テキスト等： 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院

成績評価： 終講時試験、レポート、出席状況

2021年2月改訂

科目名 統合技術演習
 授業科目の区分 統合分野 看護の統合と実践
 履修対象 3年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 3名

授業概要 臨床実践に近い状況下で総合的な判断・対応を体験することにより、卒後の看護業務遂行のイメージができる。

臨床に近い状況下での演習を通して、3年間の学習で習得した知識・技術・態度を統合し、対象に応じた看護を実践できる能力を養う。

1. 複雑な看護場面において多重課題に優先順位をつけ、自己の対応能力をアセスメントして、同僚(他者)の支援の必要性の有無を判断しながら対処することができる。
2. 臨床実践能力の構造の中の看護技術を支える要素について考える。
より対象理解を深めたアセスメントを行い、その場に必要知識・技術を駆使して、安全・確実に看護を実践することができる。
3. 地域で過ごす対象に応じたケアマネジメントを考えることができる。
4. 演習やこれまでの学びを振り返り、自己の看護観や人道についての考えを深めることができる。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	導入・課題提示	統合技術演習の意義・目的 演習1:グループワーク 課題①技術演習 割り込み事例への対応 課題②地域で安心して過ごすための ケアマネジメント(ケアプランの検討) 演習2:3年間の学びの共有	グループワーク 技術練習
2	①ケアマネジメント	地域包括ケアシステムについて考える 模擬患者のアセスメントシートを参考にして 患者が安心して暮らすために必要な 支援・ケアプラン等を検討する	グループワーク 発表 ディスカッション
3			
4			
5			
6	②技術演習	多重課題(割り込み)への対応 事例患者に対する看護援助を考える 実際にベッドサイドで援助を行う 実践の根拠を明確にする 優先順位、看護倫理に配慮する	グループワーク 発表 ディスカッション
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14	看護体験の共有 まとめ	3年間の講義・演習・実習での学びを共有する 「人道」や「看護観」について考える	グループ ディスカッション
15			

発展科目：看護学の講義・実習すべてにつながっている

テキスト：なし

成績評価：グループワーク:参加度

技術演習:グループ評価、実技

看護体験の共有:参加度

} これらを合わせて総合評価とする

科目名 赤十字活動論
 授業科目の区分 基礎分野
 履修対象 1年次 前期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 専任教師
 授業概要

赤十字が発祥するに至った社会的背景と発展してきた歴史的経緯をふまえて、赤十字の活動の基本である「人道」を最高原則とする他の諸原則の実践について理解する。

学生は身近なボランティア活動を通して、人と「関り」を持つことの意義と、人を大切にし、人を尊重する「人道」の共通性について学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	赤十字の誕生とあゆみ	1. 赤十字の起こり 2. 赤十字の理念 3. 赤十字の活動と社会的役割 4. NPO（非営利団体）と赤十字	講義 ビデオ鑑賞
2 3	赤十字事業	1. 赤十字事業 国際活動、救護活動、医療活動、看護教育、血液事業、社員制度、赤十字奉仕団、青少年赤十字、社会福祉事業 赤十字広報活動、赤十字の講習	支部職員
4 5	赤十字の理念「人道」	1. 赤十字の理念「人道」って何だろう	DVD鑑賞 講義 個人ワーク
6 7	ボランティアとは	1. ボランティアの定義 2. 日本人のボランティア観 3. ボランティアの機能と役割 4. ボランティアについて調べよう	講義 個人ワーク グループワーク

発展科目：ボランティアの実践を通し、「人道」の具現化、「看護」の心を…

テキスト：日赤会館 ソルフェリーノの思い出
赤十字のしくみと活動

参考資料：蒼生書房 人道一日赤の手引き
新人看護師 若葉と読む「赤十字の基本原則」
集英社 鎌田實著 アハメドくんのいのちのリレー

成績評価：終講時試験、レポート・参加度

2021.3改訂